



無知で気弱な美少女メイド雇って  
エツ子なご奉仕させる話



今日からメイドを雇うことになった

無駄に広い屋敷を掃除するのに  
毎回業者を呼ぶのも面倒になってきたし  
三十も過ぎて外食ばかりでは健康に良くない  
何より仕事が忙しくなりすぎて、家のことに  
手が回らなくなってきた

そこでメイドを雇ってその辺のまろまろを  
やってもらおうというわけだ


まあこれはもちろん建前で、  
本当の理由はほかにある

彼女を見つけたのは偶然だった  
商談のために遠くまで来たはいいが道に迷ってしまい  
道を聞くために入った施設が孤児院で、  
彼女はそこで怒鳴られていた

内容は覚えていない  
怒鳴られている彼女の横顔と、おびえた表情に  
俺はくぎ付けだったからだ  
ほとぼりが冷めるのを見計らって声をかけ  
なんやかんやあって……俺は彼女を引き取ることになった

結構な出費だったが、どうせ他に使う当てもない  
一応彼女には確認して、相当戸惑ってはいたが  
了承してくれた

まあ施設でもあまりうまくいっていなかったようで、  
どちらかというとな怒鳴っていた側  
——後から知ったが施設長らしい——の女性の方が  
『えっ、いいんですかこの子で!?  
しかもこんな大金……どうぞ持ってっちゃってください!』  
という感じだった



それからメイド服の採寸や彼女の自室のセットなど、  
必要なものをそろえるのに奔走し、帰り着いたのは夜だった  
すっかり連れまわしてしまい相当疲れた様子だったが、  
彼女はよく眠れただろうか？

…まあ心配が必要なのはむしろこれからなのだが

そろそろ時間だ  
ふと時計に目をやった瞬間、小さくノックがあった

どうぞ、と声をかけると  
静かにゆつくりとドアが開いた

…お、おはようございます…

分かりやすいくらいびくつきながら  
部屋に入ってくる彼女を見て、  
昨日と同じ感情がふつふつと沸いてくる

いわゆる嗜虐心というやつだろうか  
別に嫌がるようなことをするつもりはないのだが……

おはよう  
昨日はよく眠れたかな

あ、はい…えっと、ベッド…部屋を…  
その…あ、着替えが難しくくて…  
遅くなつてすみませんでした

ええと…

とりあえず、遅くなつてはないから  
気にしないでいい、と言おうとしたら

あ、すみませ…よく眠れました  
ありがとうございました…



何に対するありがとうなのかわからないが…  
眠れたならよかった  
どうやらかなり緊張している様子だ  
まあ昨日までと環境が全く違うのだから  
あたりまえだが

気にしないでくれ  
雇用主として当然のことだ  
…では早速仕事の話をしてようか

は、はい…  
お願いします

予定では10数分ですますつもりだったが、  
物分りがあり…というか、分かっているのか  
分かっているのか分からないというか…  
なので全て説明するのは早々に取りやめて、今日はとにかく  
モップとバケツで床を拭いてほしいとだけ伝えた

床掃除…ですね  
わかりました

とりあえずこれでいいか  
少しづつ覚えてもらえばいい  
主題はこつちじゃないかな

それと…なんだが

あ、はい…



掃除みたいな家のこともそうだが  
主人——俺のケアもしてほしいんだ

ご主人様の…  
けあ…ですか？

ご主人様という響きに  
ちよつとぞくつとする

ああ  
風習の違いとか、あと俺自身特殊な体質だから  
結構変なことも頼むかもしれないんだけど…

これはもちろん嘘だ  
ただの前振りに過ぎない

は、はい…

とはいえ、君が嫌がるようなことを  
強制するつもりはない  
できないことはできないと言ってくれていい  
それでクビにするようなこともないからね

あ…ありがとうございます…



まあここからが本題だ

じゃあ早速なんだけど…  
スカートをめくって  
下着を見せてくれるかな

……………え



昨日の夜、勢いだけで彼女——名前はルネットというらしい——を  
半ばさうじょうに雇用した理由について自問自答していた

俺は数年前に30を過ぎたが、女性経験がない  
別に気にしたこともない。単に興味がなかったからだ  
だが俺も人を好きになつたことはあつた

それは俺が13歳のころで、その子は学校の同級生だつた  
一度も同じクラスになることはなかつたが  
爪いに見かける度、なぜか俺の目を引いた  
ルネットと同じように、いつもおどおどと自信なさげな少女だつた

結局何の関わりもないまま卒業したので  
彼女のことは何も知らないに等しい  
というのに、この年になつても彼女の存在が  
俺の心に残つたまま、薄暗い影を落としている

恥ずかしい結論だが、俺はルネットを通して  
あの頃の自分を救済したいのだと思う

あの頃何もできなかった自分を  
彼女と同じ年頃の、彼女に似た性格のルネットを使って  
得られなかったものを取り戻そうとしている

なんとも身勝手な話だ…  
と思ったので、一ツ線を引くことにした  
それがさつきルネットに伝えた、嫌がることは強制しない、だ

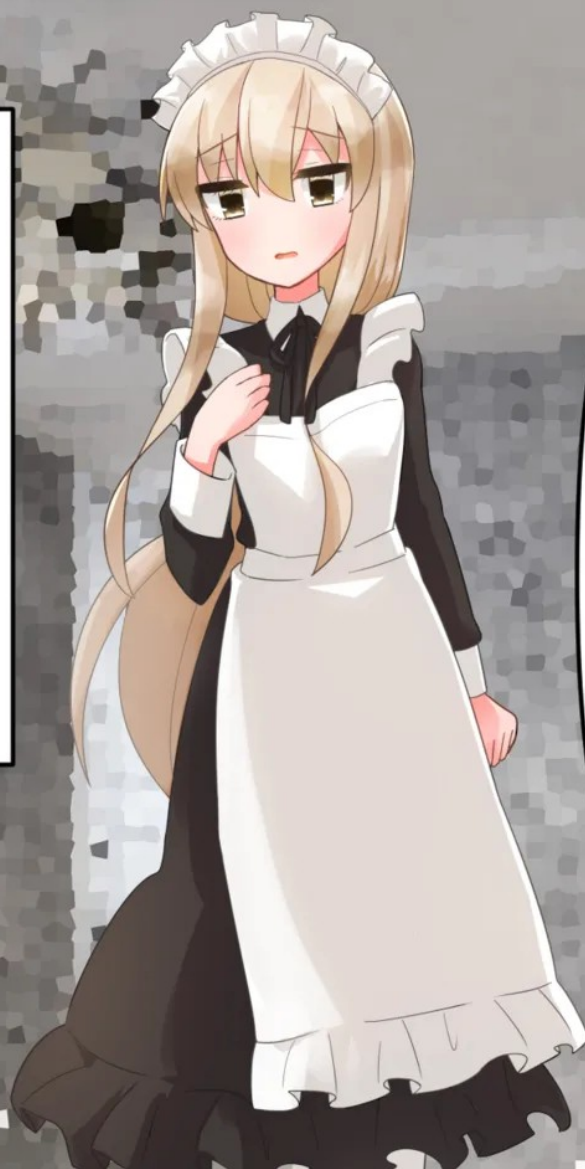
もちろんそれで俺が今から行う性犯罪を  
擁護できるわけではない  
俺はきつと地獄行きだろうが、仕方ない  
それでもいいと思ってしまうただから

これはうちの変わった風習でね  
敵意や武器を隠していないことを表明する  
服従のポーズみたいなものだ

これを僕がしてほしいと言った時にしてほしい  
もちろんできないならできないでいいんだけどね  
やっぱり恥ずかしいかな？

表情をうかがいながら口から出まかせを紡ぐ  
ずっと不安そうな顔だからよくわからないな

え、と…その…  
恥ずかしいというか…



わたしの…下着なんて見たら  
不快になるんじゃないかと…思つて…

…この自己肯定感の低さは  
むしろ正しいと言つべきか

不快になんてならないよ  
それに目的は下着じゃなくて  
あくまでそういうポーズの方だからね

どうかな？  
できそう？



えと…はい…

ああいう施設言っただけに  
性的な知識はかなり薄そっだ

ありがとう、じゃあ…  
ご主人様、わたしの下着  
たくさん見てください

って言いながら  
たくし上げてもらえるかな



……？  
はい……わかりました……

わかつたらしい  
ここで失敗することも想定していたが  
気弱でかつ無知だとうまく誘導すれば  
なんでも……してくれそうだ

今からする行為で自分が  
どんな目で見られるかもわからずに  
もぞもぞとスカートの手端をつかみ始める

ちなみに下着は施設から持ってこさせてある  
そのうち新しいものを買ってあげたいが  
まずはルネットの普段の下着が見たいからな




…あ、えつと……  
ご主人様……わたしの下着……  
たくさん見てください……？

言いながら少しずつスカートの裾が持ち上がり  
純白に少しだけ桃色が混じった太ももが  
あらわになっっていく

白か……

ルネットのいつもはいている下着が姿を現す  
可愛らしいおへそまで丸見えだ





不安そうな表情に少しだけ紅がさす  
多少の羞恥心はあるが、知識がないから  
何をされているのかわからず  
戸惑っているようだ

その表情が非常に…そそる

俺は机の影に隠れてチャックを下す  
既に屹立したちんぽをばれないように露出する



しつかりと握って...ルネットの表情と下着を管め回すように見ながらゆっくゆっくキ始める

「はい」...そのままでございけるか

あ、はい...

まさか今まさに俺が下半身を露出してしまっているなんて夢にも思わないだろう



日焼けとか…するのかわ…  
う……

お……お……  
はあ……肌、白いんだな……

え、あ……はい……

え、つと……  
したことはない……です



そうなんだな…  
はあ、ああ…

し、下着は…  
その下着はいつから  
履いてるの？

え…？

えっと…  
何年前…から…？





ああ…白が好きなの？  
白…似合ってるね…  
ルネット…ああ…

はあ、はあ……  
結構、履いてるんだね…

え、と……  
はい……好きです……？



出る、お、この……  
白の、お、お、お……  
ああ、はあ……

はあ、はあ……ほ、僕……

……  
？



ああ、もう……は、  
ルネットの下着、  
見ながら……

白く……！！

机の下に、精液がぶちまけられる



……

何が起こっているのかわからない  
ルネットを見ながら  
射精中もちんぽを「ん」

お、お、お……

ん……お、お、お……



残りも全部絞りだして、  
机の下はすっかり精液まみれだ

はあ、はあ……  
おろしいいぞ、ルネット

あ、はい……

疑問はあるのだろうが、  
聞いてくることはなかった  
やはり気弱な女の子だ

机の下を掃除した後はやみくもに仕事をして、  
気づいたら夕方になっていた

朝から一発抜いたし、少し疲れたな  
風呂にでも入ろう  
と思いつながら廊下を出ていると、  
ルネットの姿を見かけた

お世辞にも素早いとは言えない動きで  
モップをかけている  
…まさか朝からずっと床を磨いていたのだろうか  
休みも取らずに…

同時に気づく  
昼飯は…どうしたんだろう  
俺は普段からつい忘れてしまうことが多いので平気だが  
ルネットの分は失念していた

まだその辺の話はしていない…  
勝手に食べるような性格でもないだろう  
しまったな、パンツを見るよりも先にするべきことがあった

…ルネット

ひゃっ…

…ご主人様…すみません…



謝られた。なぜ…

こっちの台詞だ  
すまない、ルネット  
ご飯食べてないんじゃないか？  
休憩も…ちゃんと取ってるか？

でも…全然終わってないので…

一日で終わる量じゃないから  
毎日少しずつやればいいんだよ  
とにかく今日はもう片づけて  
先にお風呂に入ってきてなさい




お風呂…でも…  
ご主人様より先に…

気にするな  
昨日も入ったし使い方は分かるな

はい……

モップを片づけて  
ふろく…つとお風呂の方へ歩いていく  
し、心配だな…明日からはちゃんと  
見ておかないと、倒れたら敵わん…





ルネットが風呂に入ってるうちに夕飯を作る  
いつ振りかわからないが、ふと気が向いた

ルネットの好みが変わらないし、  
保存の効く材料しかないので多少貧乏だが…  
まあいいだろう

20分程で市販のソースをかけただけのパスタと  
冷凍とフリーズドライの野菜を和えただけのサラダが完成した

うん…まあまずくはないだろう

ルネットはまだか？  
と思った瞬間、ドアが開く

あ……  
遅くなつてすみません……

ほう……

昨日は結局見られなかった  
ルネットのパジャマ姿……いいな



おっとまずは食事だ

口に合うかわからないが…  
食べようか

あ、ありがとうございます

この食事中に色々  
決めておいた方がよさそうだな



色々話した結果……  
ルネットの仕事はまず洗濯をして、  
終わり次第掃除をするということになった

本当は料理や買い出しもしてほしかったが  
ルネットに刃物や火を扱わせたり、  
お金を持たせたり、一人で出かせさせるのはちよつと  
危険そうだな……と思ったので仕方がない

すみません、私……  
何もできなくて……

いや、そんなことはない

たしかに期待を下回ってはいるが  
完璧な家事や掃除が欲しいなら  
初めからベテランの家政婦を雇っていた

最初に話した通り、ルネットは  
俺自身のケアも仕事に入ってるからな  
そっちで頑張ってくれば問題ない

はい……  
ご主人様のケア……？  
では役に立てればいいんですけど……

そっちはもう間違いない  
役に立つから大丈夫だ



食器を洗って風呂に入り、自室に戻る  
机の前に座って明日の仕事の段取りを考えていると  
ノックの音が鳴る

お、おやすみ…の、ところ…すみません  
えっと…

どうしたんだ、こんな時間に  
まだ寝ないのか

あ、その…ね…  
寝てまいいですか？



思わず噴き出してしまっ  
寝るのに許可がいると思つてたのか？  
そういえば昨日は、もう寝なさいとか  
声をかけた気がするが…

仕事が終わったら自由に過ごしていいんだよ  
好きな時間に寝たらいい

すみませ…ありがとうございます  
…おやすみなさい

扉の外に消えていくルネットに  
そっぴえばと思ひ声をかける



まだ見てなかったな、と思ってな…

スカートを…  
捲ってくれるか？

パジャマ姿のルネットのたくし上げを  
食事の時から見たいと思っていたんだ  
今朝の感じなら不審がられはしないはずだが…

あ、はい……  
わかりました…



不安そうな顔——いつもだが——をしながらも  
裾を持ち上げて下着を見せてくれる

今朝とは違う水色のパンツだ  
フリルが付いていて可愛い

昨日買った下着かな？

あ、はい……  
そうです……





可愛いデザインだね  
そういうのが好きなのかな？

え、つと……  
見てたら……店員さんに  
すすめられて……

なんで見たの？

かわいい……かった……から……？



あ、ありがとう…  
ございます…っ

そうだね  
ルネットに似合っていて  
とても可愛いよ

完全に勃起していたが  
しかし今朝と同じネタで抜くのは  
少しもったいない気がする



ありがとうルネット  
もう下ろしていいぞ

はい……

ここはこらえてまた明日：  
考えていることもあるしな

じゃあお休み  
明日からはちゃんと休みながら  
仕事するんだよ

あ、はい…  
ありがとうございます…

ルネットが頭を下げながら出ていき  
ドアが閉まる  
…さて明日の段取りを考えておくか



翌日

朝一で商談があったため  
ルネットには書置きを残しておいたのだが  
思ったより早く帰ってこられた

これなら昼飯までにあれができそうだな  
邪なことを考えながら自室へ歩いていると  
丁度よくルネットの姿を見かけた

相変わらず袁早いとは言えない動きで  
モップをかけている  
洗濯は無事できただろうか

ただいま、ルネット

あつ…  
おかえりなさ…  
なさい…なせ…ませ…

おかえりなさいませ、か？

あ、はい…  
ご主人様…



急にすまない、一つ大事なことを忘れていたのを思い出してな  
本当は初日にやることなんだが…

はい……

身体検査の一環でな  
下着を脱いで、中を見せてほしいんだ

下着……なか……？



もちろん無理にとは言わないが…  
嫌かな？

嫌というか…  
私の下着の中なんて見たら…  
不快になるんじゃないかと…

そんなことはないよ  
それにこれはただの検査  
他意はないから安心して見せてほしい

もちろん他意はある  
むしろ他意しかない



わかりました…

よし  
じゃあそのスピードに合わせる  
脚を開いて

ルネットが俺のベッドに横たわり  
不安そうに脚を広げていく



おお…

自分でやらせといてなんだが  
すごい格好だな  
というかパンツ履いたままだった

脱がさないといけないが  
これはこれで…  
不審がられないように真剣な顔を装いながら  
ルネットの開脚下着姿をしっかりと目に焼き付けておく



…よし  
ルネット、下着を脱いでくれるかな

あ、はい…わかりました…

一度脚を閉じて、寝転がったまま  
パンツを下ろしていく  
そして再度脚を開く





これが…ルネットの…  
思わず無言になってしまっ

……

……

じゃん、じゃあ  
検査するから…

はこ……

なつきまでよりの顔を近づける  
ルネットの秘所から甘い香りが漂ってくる

るルネットの  
女のキの匂い……



割れ目をじっくりと観察する  
ぴたりと閉じたそこは淡いピンク色で  
俺の視線をくぎ付けにしてくる

甘い香りを深く嗅ぐ度、鼻息が擦れるのが  
ルネットが上ずった声を漏らす

思わず嘗め回したくなる衝動に駆られるが  
必死で心を落ち着ける

まだだ、まだ早い…  
ルネットを怖がらせたり、嫌がられてしまつては  
今後に支障が出る  
今日のところは我慢だ…



ルネットにはれないように  
ベッドの陰で下半身を露出する

ルネットのおまんこを  
眺めながらの自慰…  
背徳感で背筋がぞくりとする

ルネット  
そこを…自分で広げられるか？

………んっ



そっ、って…  
ここですか…？

ルネットが指でふにふにと  
自分の秘所に触れる  
や、柔らかそつだ…

ああ  
そこ…おまんこは穴が開いていて  
広げるとそれが良く見えるんだ  
それを検査したい

お…おまん…こ



今のは無意識だろうが…  
ルネットが淫語を口走ると  
興奮するな

そうだな…  
ルネットはメイドさんだから  
ご主人様に検査をお願いしないといけないよね

あ、はい……

じゃあおまんこを広げながら  
こう言っってください



ルネットに指示を出す

ちゃんどできるかな？  
ルネット

が、がんばります…  
えっと……

ルネットがおまんこに指をかけながら  
口を開く





奥まで…ぜんぶ…  
検査、して…くたせよ…

ご主人…さま  
わ、私の…お、おまんこ…

おお…ルネット…

自ら秘所を広げて  
おねだりするルネット  
：これはたまらないな

しつかり検査して  
やるからな…

俺はちんぽを握った手を  
前後に動かし始める



はあ、はあ…  
ルネット…

意味も分からないまま秘所をひげ、  
いやらしくおねだりまでした  
ルネットの、その奥までを  
じっくり見ながら  
満を持してちんぽを刺激する

…こうして検査されるのは  
初めてかな？

え、と…  
はい…初めてです…



そうなんだね...  
お、これは...

.....  
?

少し見にくいけど、  
奥に見えるのは処女膜だろう  
確かにルネットは  
初めてのようだ

ルネットは処女なんだね





…「お」お…っ

メイドさんに  
向いてるってことだよ

あ、ありがとう…  
ごめいませす…っ

ルネットの表情に嫌悪はない  
秘所を晒す意味も  
俺の言葉の意図も  
わからないままこんな格好をしているのだろっ

俺はといえば見えないように下半身を露出し、性欲をむき出しにしてちんぽをしゃべっているというのに

ルネットはそんなもの存在すら知らないまま俺におかずを提供し続けている

そんな歪んだ状況が背徳感として俺の剛直をさらに堅く隆起させる

はあ…はあ…  
ルネット…



ルネットは、処女だし…  
色もピンクで、すごく…  
ああ…いいよね、ルネット…

……？

す、すじもきれいで…  
なか…隣も…はあ、はあ…  
すごく…気持ちよかったです…

ご主人…さま…？



お豆さんち、控えめで…  
かわいくて……  
に、白い毛…あまい、  
女の子の、白くて……  
はあ、はあ…ああ……

………  
?

もう……  
ルネットの、見ながら…  
ルネットの、おまんこを見ながら…



で、出るよ…  
精液、出るよ…

…せこ…えき…

うん…  
精液でるからね…  
ルネットも…

ルネットのおまんこみながら…  
精液たくさん出してくださって  
おねだりしてごらん…





あ、はい……  
えと……

私の……

ルネットのおねだりと同時に射精するために  
手の動きを調節する

ご主人様…私のおまんこ…  
見ながら…

る、ルネット…  
ルネット…

せい、えき…？  
たくさん…出してください…

お、おっ…出る、出る…  
精液、出るっ!!





ベッドの陰で精液が勢よく  
射精する

おっ、おっ、おっ——！！

.....  
?

しゅ  
ゅ

ちゅ  
ゅ

ちゅ  
ゅ

ベッドの舌を白く汚す  
とてつもない快感で  
腰が砕けそうだ

ゴ……ご主人、様……？

ルネットの心配そうな声と表情が  
残りの精液を絞り出させる



……はあ、はあ……  
はあ……  
大丈夫だよ、ルネット……

検査は終わったから  
下着を履いていい、そつ言つと  
ルネットはもぞもぞと着衣を整え始めた




…ふう  
検査は合格だ  
引き続きよろしく頼む

は…はい……  
ありがとうございます……

こちらを気にしながらも、何も聞かずに  
部屋を出ていくルネット






汚した床をきれいにして  
仕事に戻る

：いや、先に昼飯だな  
腹も減ったし、丁度いい時間だ

そのあとは適当に作った飯を  
ルネットと一緒に食って  
仕事に戻った



営業から戻り、廊下を歩きながら  
今日はどうするか考えていた

ここ数日忙しくて抜いていないから  
溜まっているのだが、そろそろルネットに触れたり  
触れられたりしたいという欲が高まってきた

順序良く行くなら  
触らせるのが先か…  
ならばやはり…

俺は今朝からぼんやりと考えていた  
計画を実行することにした

ルネット

あ…ご主人様…  
おかえり…なさい…ませ

言えるようになったが  
まだたどたどしいが

ああ、ただいま  
すまないが、道具を片づけて  
ついてきてくれないか





あ、はい…  
わかりました…

モップとバケツをもそもそと片づける  
ルネットを見ながら、ちよつと聞いてみる

ちゃんと休憩を  
取ってるか？

は、はい…  
たぶん…

多分…?  
まあ、初日に比べると  
元気そうに見えるし大丈夫か…

ルネットを引き連れて  
ある場所へ向かう

おふろ…

今日の最後の仕事はお風呂だ



お風呂掃除…ですか？

まあそれもやってもらいたいが  
メインはそこじゃなくて…  
俺の体を洗ってほしいんだ

もちろん背中を流すなんて  
かわいいものではないつもりだが  
ルネットの反応はどうだ…？

は体…  
い…  
…



相変わらず分かっているのかいないのか  
まあ嫌がってはなさそうだし、やらせてみるか

人に洗ってもらった方が  
自分じゃ気づけない場所も  
きれいにできるからな  
これも俺のケアの一つだ

はい…がんばります

俺が服を脱ぐ間に  
簡単でいいから風呂場を洗うよう指示する  
…いきなり全裸で出ていったら驚くだろうか？  
まあいいか…その辺の反応で対応を考えよう



一応手で隠しながら風呂場に入る  
ルネットはもちろん掃除の途中だったが  
あとはシャワーで流すだけでいいと伝える

ちなみにルネットの反応は薄かった  
こちらを見ないようにしているような気はするが  
それは服を着ていても同じだからな…  
普段から目も合わせてくれないし…

とりあえず最初はジヤブで背中を洗ってもらおう  
そのまま流してもらって前へ

腕や胸、腹…脚を洗ってもらって  
満を持して股間を見せつける



恐ろしくちんぽを見ること自体初めてなのだろう  
それがさらに勃起しているから戸惑っているようだ

ご主人様……  
これって……

きよとんとした顔で  
俺の一物を見つめている

……  
？



あ、はい…  
わかりました…

まあ、なんだ  
今は気にしないで  
洗ってくればいいから

ルネットが再び手を泡だらけにして  
おすおすと両手を伸ばしてくる



泡でぬるぬるのルネットの面手で  
ちんぽを包まれた瞬間  
想像を凌駕する快感で声が漏れる

い、いや大丈夫…

あ…すみませ…

おっ、く…！

左手で竿を下から支えるように握り  
右手は亀頭を包んでくる  
俺が落ち着いたのを見て  
そのままゆっくと両手が動き出す

触り方がとにかく優しくて、皮膚の表面だけを  
撫でられているような感触に背中がぞわぞわする

おそろくなつき俺が声を漏らしたのと  
自分がない部位だから  
洗い方がわからないのだろう

ここはしっかりと  
教えてあげないといけないな…



…ルネット、なんだ…  
その…

はい…

ちんぽ触られてると  
舌が回らないから困る

デリケートなところだから  
優しく触ってくれるのは嬉しいんだが、  
もう少し強く握ってほしいんだぞ



…このくらい…  
ですか…？

お、おお…！

ルネットの両手がまっすぐまでよりも  
ぎゅっと握ってくる  
それでもどちらかといえば弱いのだが  
この弱弱しさがルネットらしくて…良い

そう、その状態で…  
左手は前後に…  
右手は…撫でるみたいに動かしてみて…





……右手……  
撫でる……

え、と……  
ひだりて……を……

そして右手が龜頭を包んだまま  
ゆっくりと撫で回してくる

ルネットの左手が  
ぎこちなく前後し始める

う、おっ……  
これは……

最初はぎこちなかったが、次第に  
両手を同時に動かせるようになってくる

泡でぬるぬるの両手が  
ちんぽを優しく擦るたび  
風呂場の密室に息遣いと  
水音だけが響いて反響する

う、お……お……る、  
ルネット……あ、はあ……





はじ…んびれ…？  
この…ですか？

……？

もう「ん…ん…  
くびれのとこのま…  
洗ってかわるか？  
よ、汚れやすいからな…

おっ、ふ…！  
く…あ…

ルネットの右手が掌で龜頭を、  
親指と中指でカリ首を輪っかのように包み  
擦り洗うように動かす

「これはやばいこー！  
ただでさえルネットの手の  
小さくて柔らかい感触が気持ちいいのに  
それが泡でぬるぬるになつて、  
ちんぽ全体を優しく擦ってきて…」

「はあ、はあ…ぬるぬると…  
ああ…もう少〜、もう少〜  
だからな…」

「……………」



よ…汚れやすい部分だからな…  
もう少し…もう少しは早く、洗ってってくれるか？  
あ、お…おお…

はい…わかりました

何も知らないルネットの  
戸惑った顔見ながら…  
ちんぽ両手でしごかれて…

はあ、はあ…ルネット、ルネット…  
いいよ、ルネット…





ああ、出る……  
出るよ、ルネット……

ああ、出る……  
ルネットの両手に包まれて……  
ルネットの手の中で……！

ああ、もう……ルネット……  
そんなに、しごかれたら……  
もう……

……？

精液、出る——ッ!!

……んっ

ルネットの掌に  
勢いよく精液がぶちまけられる

何が起こっているのかわからないのだらう  
戸惑いながらもちんぽを洗う手を  
止めないルネット



く、おっ、ふ……っ！  
る、ネット……あ、はっ……

なにが……  
温かい、よ……

射精中も優しくしごかれ続けて  
残りも全部絞りだされる

精液の存在も知らないような  
女の子の手の中で、射精……！  
き、気持ちよすぎる……！

ご主人…さま…？  
大丈夫ですか…？

ルネットが不安そうな顔で手を止める  
もうしばらく余韻に浸っていたいが  
仕方ない

…ありがとう、ルネット  
大丈夫だよ  
流してくれるか？

…あ、はい…  
わかりました…

そのまま全身を流してもらって  
風呂を出す

ルネットからタオルを手渡される  
とんでもないことをさせられた  
後だというのに献身的だ  
メイドの鏡だな

すつきりしたらやる気が出てきたな  
今日も夕食は俺が作るか——



ルネットが来てからしばらくたったある日

外回りから戻り  
放置しっぱなしの庭を見ながら  
そろそろ業者を呼ぶかと思っていると

庭の隅の方にルネットが  
しゃがみこんでいるのが見えた



珍しくおさぼりか？  
別に咎めるつもりもないが  
何をしているのか気になって  
そろりそろりと近づいてみる

.....

何か見てるのか？  
珍しい草でも生えてたか  
それとも...

細心の注意で近づく  
自分の影にも注意しながら...  
あと1メートルというところまで近づくと  
ルネットの独り言が聞こえてきた

ふへ……  
まるい……

何を見てるんだろう  
肩越しに覗き込んでみる

するとそこにいたのは  
子供のころよく見かけた――

…だんごゆ?





悪い、驚かすつもりはなかったんだが…  
だんご虫、好きなのか？

ん…

驚いて振り返るルネット

あ…う…

すみません…  
き、気持ち悪い…ですよ

そうか？  
まあそういう人もいるだろうが…

俺は別に嫌いじゃないぞ  
まるくなるのかわいいよな

……






う……う……

急に唸り声を上げ始めるルネット  
だ、大丈夫か？


ルネット？  
どうかしたか？

いえ…なんでも……



ルネットは床掃除に戻ったので  
俺も自室に戻ってきた  
さっさと今日の分の資料をまとめるか

おっと…  
集中していたらもう夕方か  
そろそろ終わりそうだが、風呂にも飯にも少し早いな



隙間のような時間  
一仕事終えた解放感と程よい疲労感が  
あれを呼び起こす

ルネットに手でしてもらったのは  
一昨日だったか  
…さて

少し悩んだが、やはりまだ体に触るのは早い気がする  
手以外でも俺のあれに慣れてもらって  
その後とするか  
ならやることは一つだな…

今日最後の仕事だと言って  
ルネットを呼んでくる

悪いな、急に

いえ……

呼んできた方がいいが、  
どういう理由でしてもらおうかを  
考えていなかったな



えーと、そうだな…  
この間風呂で最後に洗った  
ところを覚えてるか？

えつと…はい…  
洗いました…

あのときルネットも違和感があったと思うが  
俺のあそこが腫れたみたいになつてただろう？  
あれは勃起っていうんだ

ぼっき…



女の子に淫語をかけるヤクソクヤクソクな

あれは一種の病気みたいなもので…  
今日はまた勃起してしまっただんぼを  
ルネットに浴してほしいんだ

浴す…

別に難しいことはない  
俺の言うとおりにしてくればいいからな



ルネットを俺の股の下にしやがみこませる  
この光景もなかなか...

じゃあ...  
チャックを下して  
中身を出してくれるか？

はい.....

まどまどと俺の股間をまなべるルネット  
刺激としては弱いけど、既に半勃ちのちんぽには十分だ



.....

すっかり勃起したちんぽをはさんで  
見つめ合う二人  
最近目を見てくれる気がするな

じゃあ...治す方法を教えていこうかな

はい.....  
お願いします、ご主人様...

とりあえず根元の部分を  
手で抑えててくれるか

あ、はい…

言われてそろりと両手を持ち上げ  
肉棒にそっと添えるルネット  
こそばゆくてむずむずする

も、もう少し強くてもっこりぞ  
ぞ、そう…そのくっつき



改めて考えるとすごいことしてるよな…  
この年齢の娘に、こんな…  
いいいやこれはご奉仕であり、治療であって…  
そういうのではないから大丈夫だ、うん

よ、よしそれじゃあ…  
勃起に効く特効薬を教えると  
ぬるぬるしたものがいいんだ

ぬるぬる…

……



そうだ  
だからルネットの唾液をたくさん  
塗りつけてほしいんだ

…唾液…ですか？

ああ  
嫌かな…？

嫌というか…



私の唾液なんてついたらち…  
不快じゃないかと…

そんなことはないよルネット  
ルネットの唾液じゃないと駄目なんだ

また言ってる…  
全然不快じゃないし  
むしろ快感だというのに

いや今のは気持ち悪いな…  
ルネットの反応を見る



わ、わかりました……

ちよつと引いてる気がするが  
わかってくれたらしい  
まあいつもこんな顔だしな……

じゃあ……おちんぼの先っぽとくびれと……  
全体を唾液で濡らして……

はい……

ルネットの小さなお口から  
恥ずかしそうに出てきた舌先が  
ゆっくりと俺の先端に近づいてきて…触れる

お……！

温かく、柔らかい、ぬるっとした感触が  
鈴口を刺激する  
そして再度唾液をたっぷり含ませた舌が  
今度は亀頭の先っぽを舐めてくる

……ん

お、おお……そじ……  
全体に、唾液を……ぬりつけて……

あご……

ルネットの……女の子の舌が、亀頭を這いまわって……  
カリ首の辺りまで唾液で濡れそぼって「まじう



よし、じゃあ  
く…啜ってみようか

……んむえんむ〜

ああ  
啜えた方が効率よく…  
唾液を塗りつけられるからな

治療のためだから…な  
ルネット…



はい…えと…  
ほうへふか…？

ルネットの頭が動いて  
可愛らしいお口の中に俺の亀頭の  
先っぽが隠れていく

くち

おっ、おっ…  
そっ、ん…  
気がなま…

あ、温かい…ルネットの中…  
それにぬるぬる…  
もつと、奥まで味わいたい…

はあ、はあ…ルネット…  
もう少し、奥まで…啜えられるかい？

おふ…へふは？

啜えながらの上目遣いやばいな…  
征服感があつて…  
ルネットを隷属させたような気持ちで  
気分が高揚する

うん  
そのくびれの辺りまで…



ルネットの口の中に俺の亀頭が侵入し  
生暖かい感触に包まれる

ん……

お、お……ルネット……！

これがルネットの口の中…  
歯を当てないよういわれたからか  
唾液でぬるぬるの舌や唇がもぐもぐと動いて  
ちんぽを悦ばせてくる

心なしか苦しそうに見える  
口するのは顎が疲れるというからな

ルネット、大丈夫か？

………ん



返事の代わりに小さく頷いて返す  
健気でかわいいな…と思うと  
愚息がさらに硬くなるのを感じる

じゃあそのまま  
前後に動いてくれるか？

へんほ…

そ、そうだ  
出来るかな？  
ルネ…





唾液をたっぷり含ませて…  
唇で擦り込むみたいにな…

ん……ふ……

もう一回抜いて…

どう…へふが…？

ごめい…お…！

唾液でぬるぬるの唇が  
亀頭とカリ首を擦って…  
一気に口内に侵入する



そっ、そっ……！  
そのまま……何度も前後に、動いて……

ん、ぷ……

ルネットの頭がぎこちなく前後運動を始める  
繰り返し与えられる刺激と  
亀頭が口内を出入りする光景に興奮が高まっていく



や、やばいぞ、これは…  
ルネットの唇に何度も亀頭が擦れて  
カリ首が引つかかかって…

あ、は…はあ、ああ…  
ルネット、ルネット……

ほふひんはま……？



困惑するルネットの表情と、亀頭を匂む唇を見ながら  
前後運動する頭と連動して繰り返し送りわてくる  
快感の波に飲まれて、  
射精することしか考えられなくなっていく

ああ、ちう……出る、出るよ……  
ルネットの、お口の中心……  
精液出るよ……

……せこ……ん……





出る——っ  
啞えてっ!!

…んんっ!?

射精と同時に奥まで啞え込むルネット  
精液が勢いよくはじけてルネットの口内を犯す





くっ、お、お……!

ルネットの口内で、射精——！  
キ、気持ちよすぎる……!!

射精中もルネットの唇の感触を  
存分に味わいながら  
最後まで出し切る



は、はあ…  
はあ…  
ルネット…

知能が戻ってくる  
ルネットが小さく喉を鳴らしてることを知り

ん…


る、ルネット…  
飲んだのか？



飲んでご奉仕とは  
メイドが板についてきたな

あ…すみません…

いや全然  
むしろ嬉しいというか…



そういえば  
誕生日はいつだ？

.....  
え？

夕飯を食べながら  
ふと気になって聞いてみた

ルネットの誕生日だよ

誕生日…は…  
わからないです…

そうなのかな？

気づいたら施設にいて…  
祝ったこともないので…

まあ施設育ちだとそういうこともあるか  
しかし誕生日がないのは寂しいな…  
そうだ



じゃあうちに来た日にするか  
わかりやすいし

.....え？

まだ一か月経ってないから  
祝うのはだいぶ先になるが...  
無いよりはいいだろう

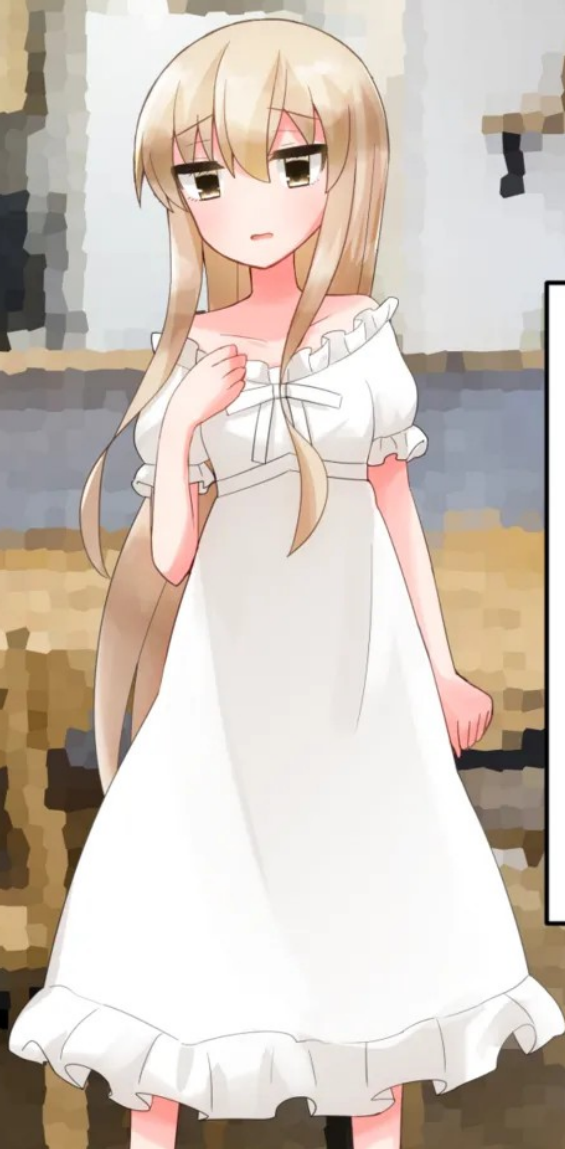
.....



無言になってしまった  
困っているのだろうか？  
いつも困り顔だから分からないが…

まあ誕生日を祝いたいのは俺のエゴだからな  
もちろん喜んでもらえたほうが嬉しいが、  
俺がルネットを祝いたいんだ

親が亡くなってから長いこと  
そういう相手もいなかったから  
祝い事に飢えているのかもしれない  
と思うと少し笑えた



ある夜  
俺はルネットの部屋に来ていた

そろそろルネットの温もりを味わいたくなつたのだ  
怖がらせるようなことをする気はないが…

悪いなルネット  
ちよつとケアが必要になつてしまつて

いえ……



とりあえず普通に寝てくれるか？  
添い寝してくれれば浴ると思うから

浴る…

ああ  
前話したが…  
また勃起してしまつてな  
それを治して欲しいんだ

あ…ぼっき…  
してしまつたんですね…



あ、ああ  
すまないな、ルネット

いえ…  
大変…ですね  
ぼつき…してしまつて…

そんなに連呼されると  
ほんとに勃ってくるな

さあ、  
いつもみたいに寝てごらん



ルネットが寝た隣に潜り込む  
こんなに身体を密着させたことはなかった  
ので  
ルネットの温もりが心地よい

.....

背中越しにルネットの吐息が聞こえる  
艶のある髪と、シルクのネグリジエが不意に  
指先に触れて、情欲に火がとまる

ルネット.....

シルクの内側にある柔らかさを求めて手を這わせる  
ルネットの太もも…をさするとぴくりと反応する

……っ

嫌か…？  
ルネット…

ルネットが嫌がることは  
しないつもりだが…

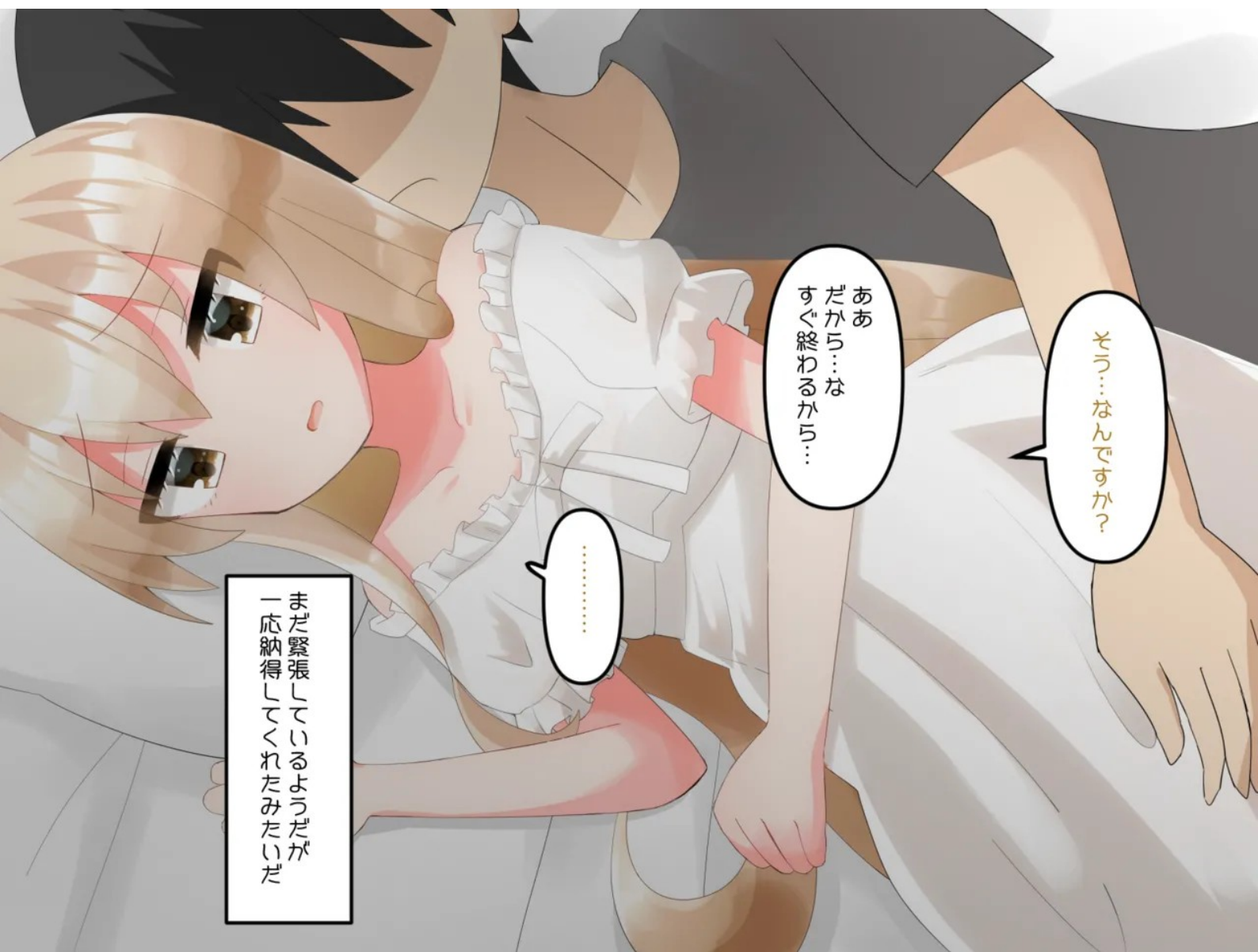


嫌では…ないですけど…  
触ると…治るんですか…？

ああ  
ルネットの身体を…たくさん触ると  
すぐに良くなると思う

私の体なんて触つても…  
楽しくないんじゃない…

そんなことはない  
ルネットの身体が一番  
勃起に効くんだ

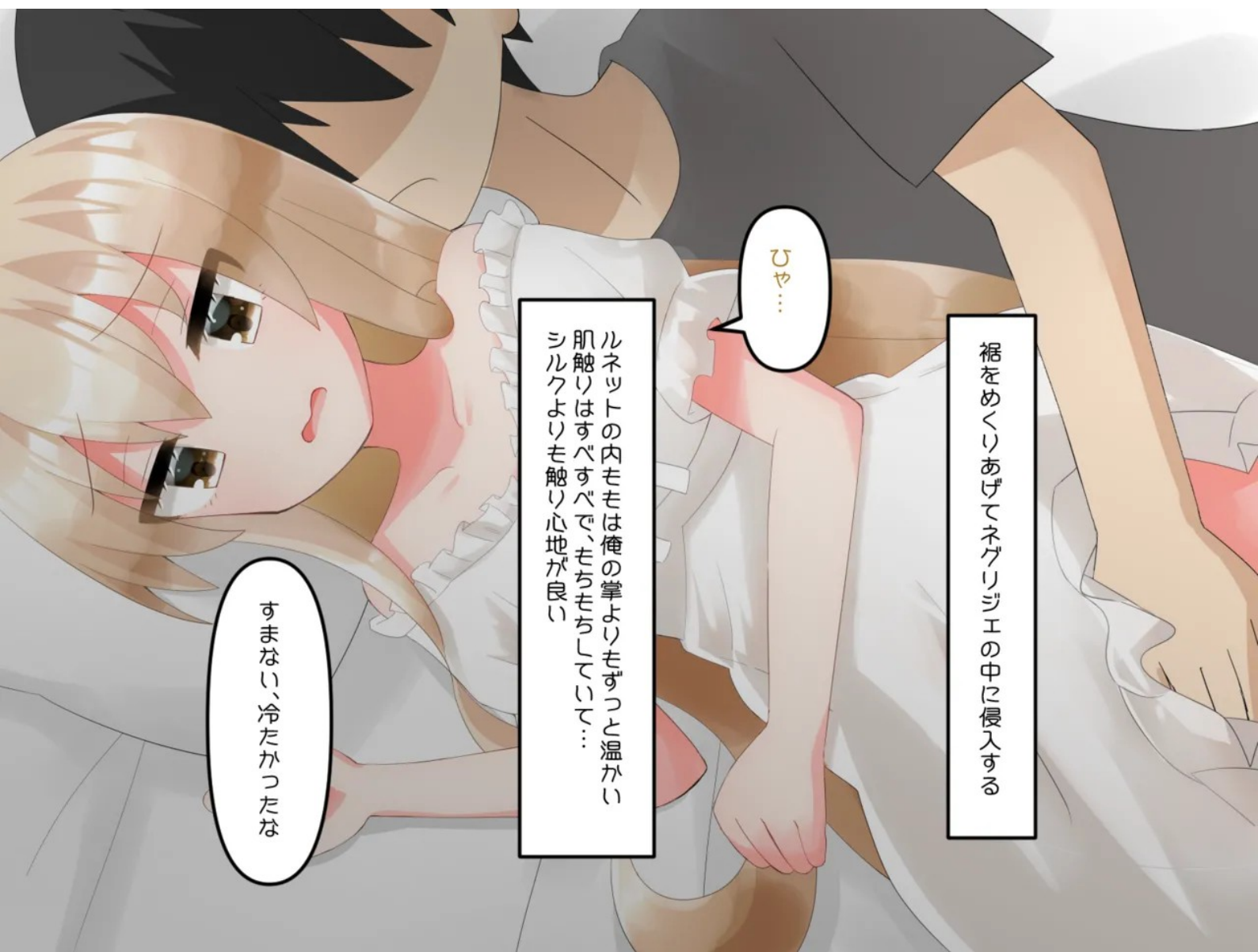


そう…なんですか？

ああ  
だから…な  
すぐ終わるから…

……

まだ緊張しているようだが  
一応納得してくれたみたいだ



裾をめくりあげてネグリジエの中に侵入する

ひゃ...

ルネットの内ももは俺の掌よりもずっと温かい  
肌触りはすべすべで、もちもちしていて...  
シルクよりも触り心地が良い

すまない、冷たかったな



いえ……

もちもちの太ももをしばらく堪能する  
当初は本当に添い寝だけのつもりだったが  
すっかり屹立した息子がもつともつととせがんでくる

先端をルネットのお尻に押し付けながら  
ルネットの胸に手を回す

ルネット…  
こもも触っていいか？



あ……

か細い声が響く  
さすがに恥ずかしいか？

それとも恥ずかしいかな

いえ……  
大丈夫です……

ネグリジエ越しにルネットの胸を揉む  
こんな少女の胸を揉むことがあるなんて、  
人生はわからないものだ

そうだろうと思ってはいたが、  
下着はつけていないようだ  
柔らかくて、少し弾力があって…  
ずっと触っていたくなる

しかしこれでは満足できないと  
息子が硬度を増すことで主張してくる


はあ…はあ…  
ルネット…  
嫌だったら、言ってくれ

俺はルネットの肩に手を伸ばし  
ネグリジエをずり下げる

.....  
っ

すぐ終わるから...  
治療のためだから、な...

す...す...す...  
...ん...ん...ん...  
だ



そう言い訳しながら  
先ほどのようにルネットの胸を揉む  
これがルネットの…胸…

……

や、柔らかい…  
ふにふに…すべすべで…  
温かくて…

ルネット…  
ルネット……

手首を回して乳首に触れる  
優しく挟んでくにくにくと弄ると  
ルネットが声を上げた

……あっ

ルネット……？  
痛かったか？

……？  
いえ……

性的快感を得るのも初めてなのだろう  
自分に何が起きてるかわかっていないようだ

ルネットを不安にさせないように  
とにかく優しく気持ちよさだけを与えていく

く  
に

く  
に

……あつ……  
ん

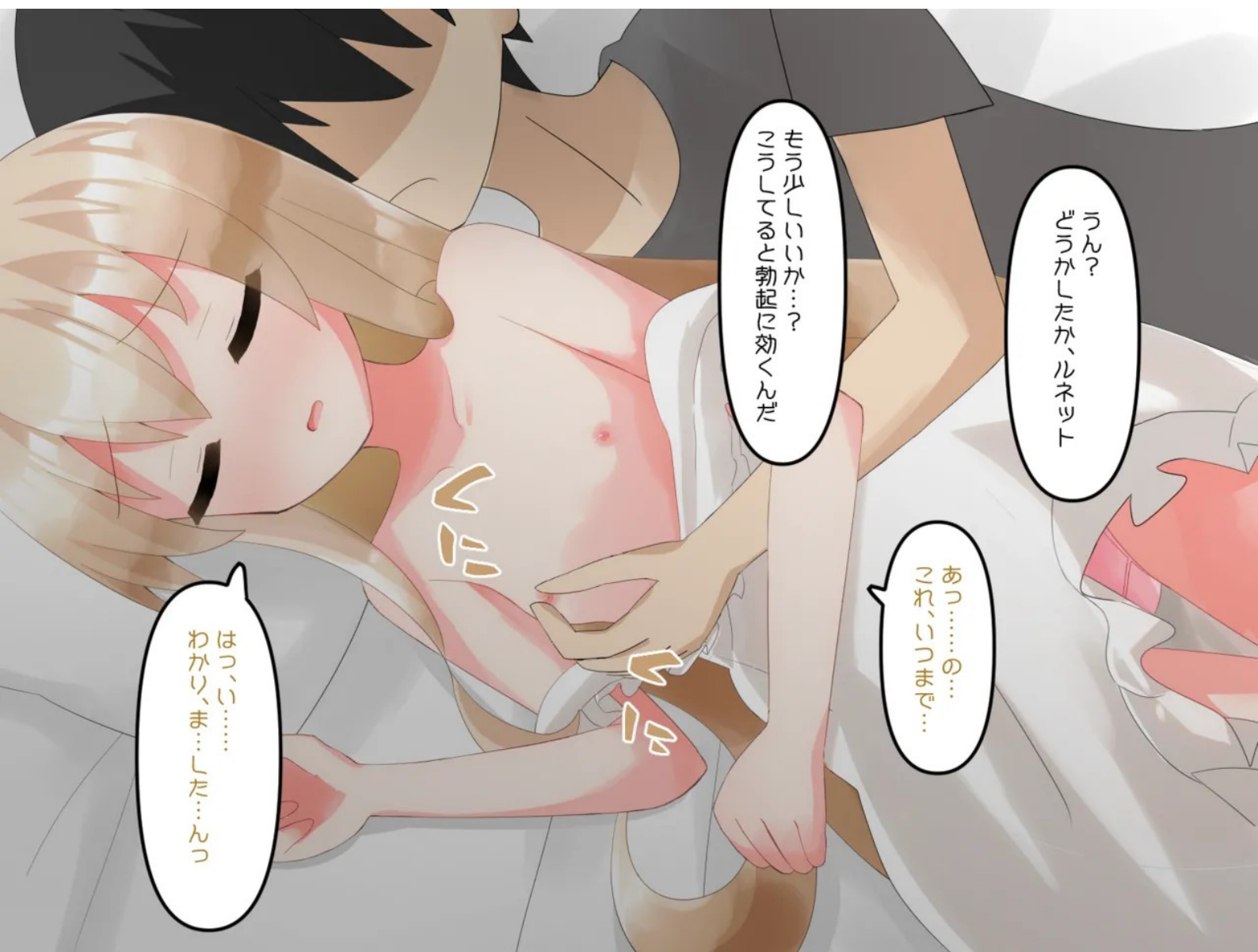
……?  
?

ルネットの可愛らしい声を聞きながら  
股間を押し付け、乳房に乳首をいじる

つまんだり挟んだり、擦ったり…  
優しく弾いたりすると、ルネットがぴくぴくと  
反応を返してくる

あつ、ん……  
ぞ「ゆ」じん、なま……





うん？  
どうかしたか、ルネット

もう少しいいか…？  
こうしてると勃起に効くんだ

あつ……の…  
これ、いつまで…

はっ、い……  
わかり、ま……した……んっ

く  
に

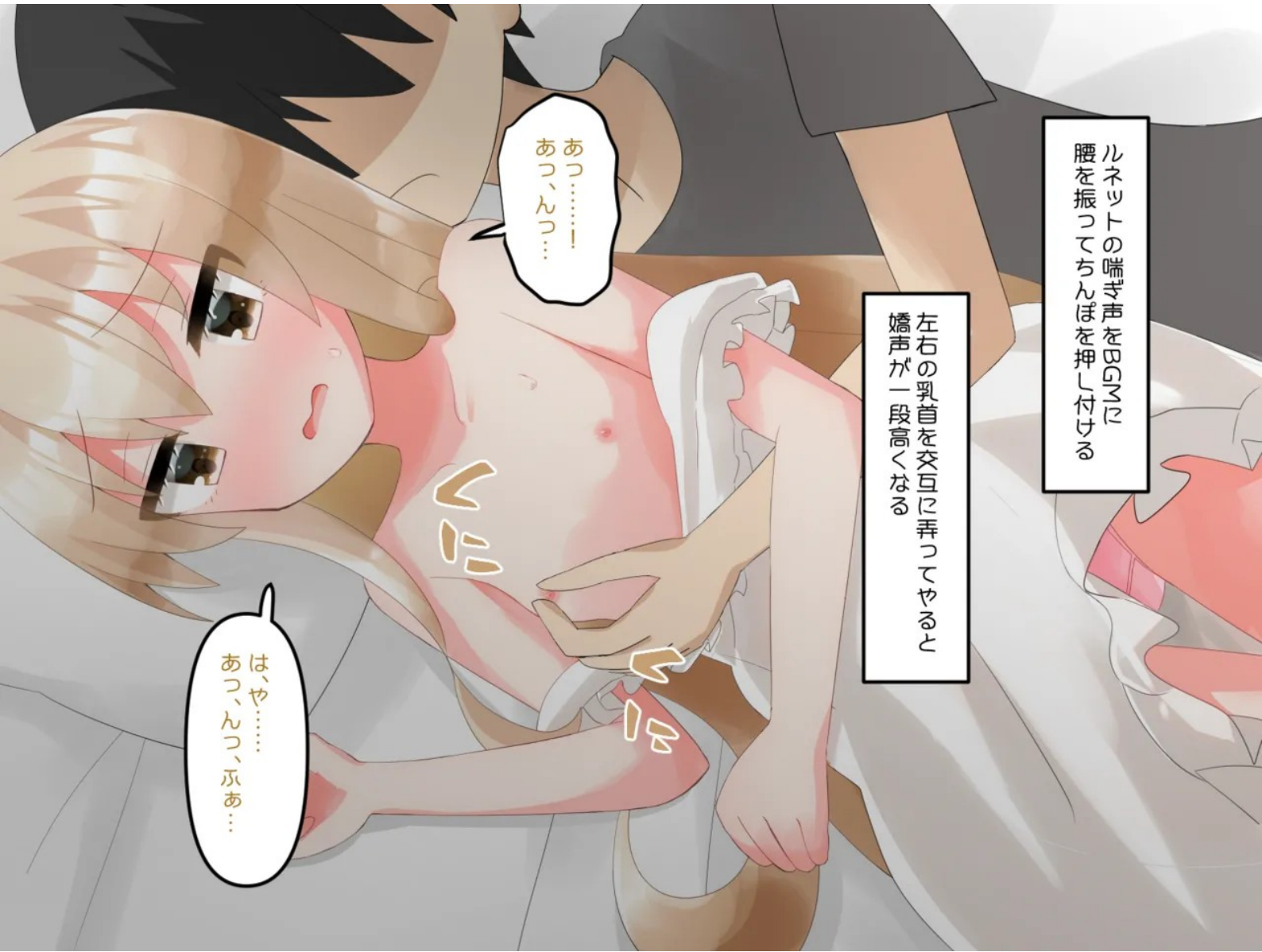
く  
に

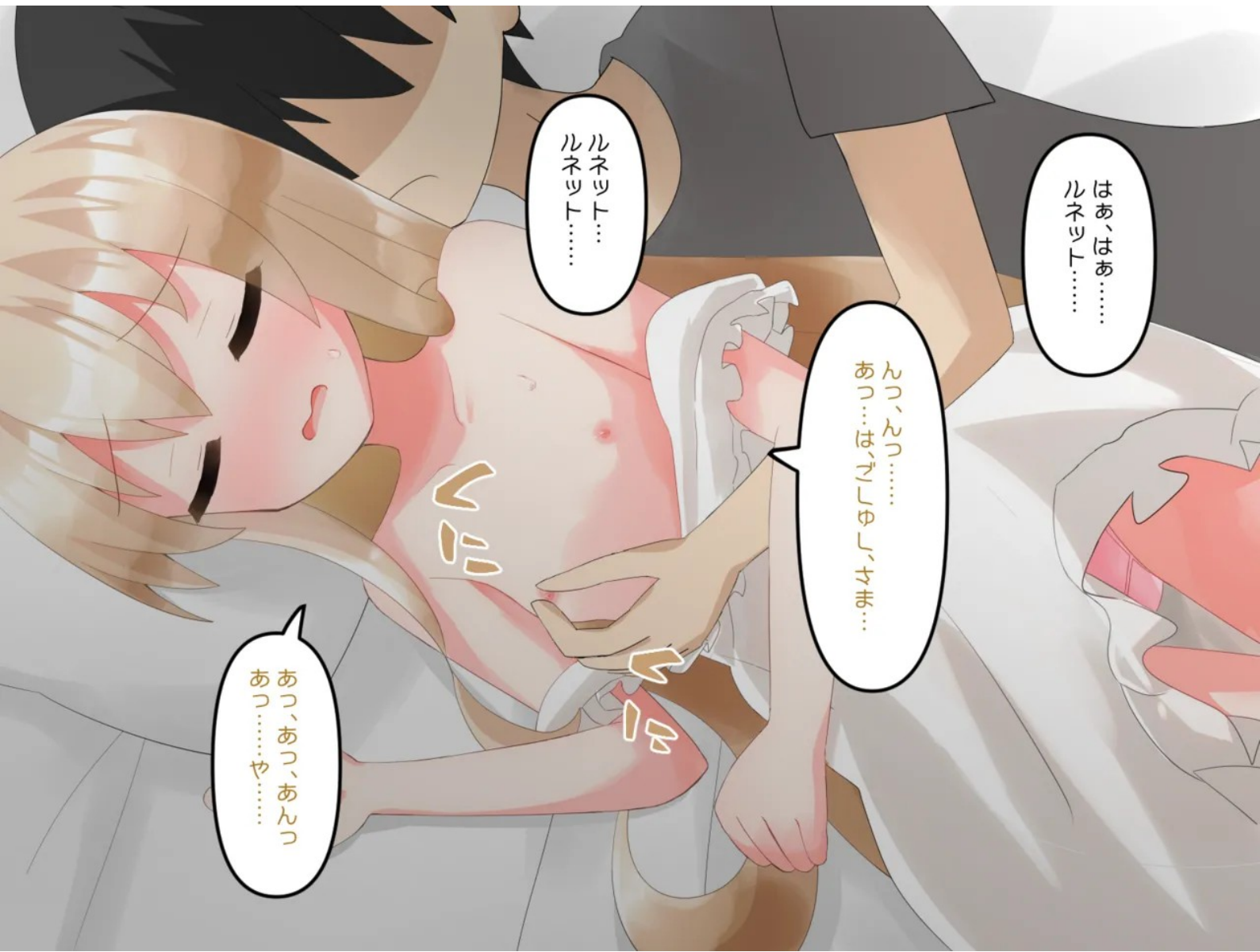
ルネットの喘ぎ声をBGMに  
腰を振ってちんぽを押し付ける

左右の乳首を交互に弄ってやると  
嬌声が一段高くなる

あつ………！  
あつ、んっ……

は、や………  
あつ、んっ、ふあ……





はあ、はあ……  
ルネット……

ルネット……  
ルネット……

んっ、んっ……  
あっ……はっ……んっ……  
……あっ……

あっ、あっ、あんっ  
あっ……や……

く  
に  
ん  
に



ふあっ……！  
あっ、やあ……

先っぽの方が感度がいいみたいなので  
集中的に擦ってやると身体をよじってくる

それを押さえつけて  
しっかりと乳首の先端を刺激してやる

く  
に

く  
に

あっんっ、ごしゅじ……  
さま……っ  
あっ、あっ、あっ……！！



あっ、んっ  
爪あつ...!!

ルネットの声の高まりと回りが、  
俺自身の興奮を高まってこへ

このまま、  
ルネットと一緒に...!



!!—うん

あっ、あっあっ……  
んんっ——!!

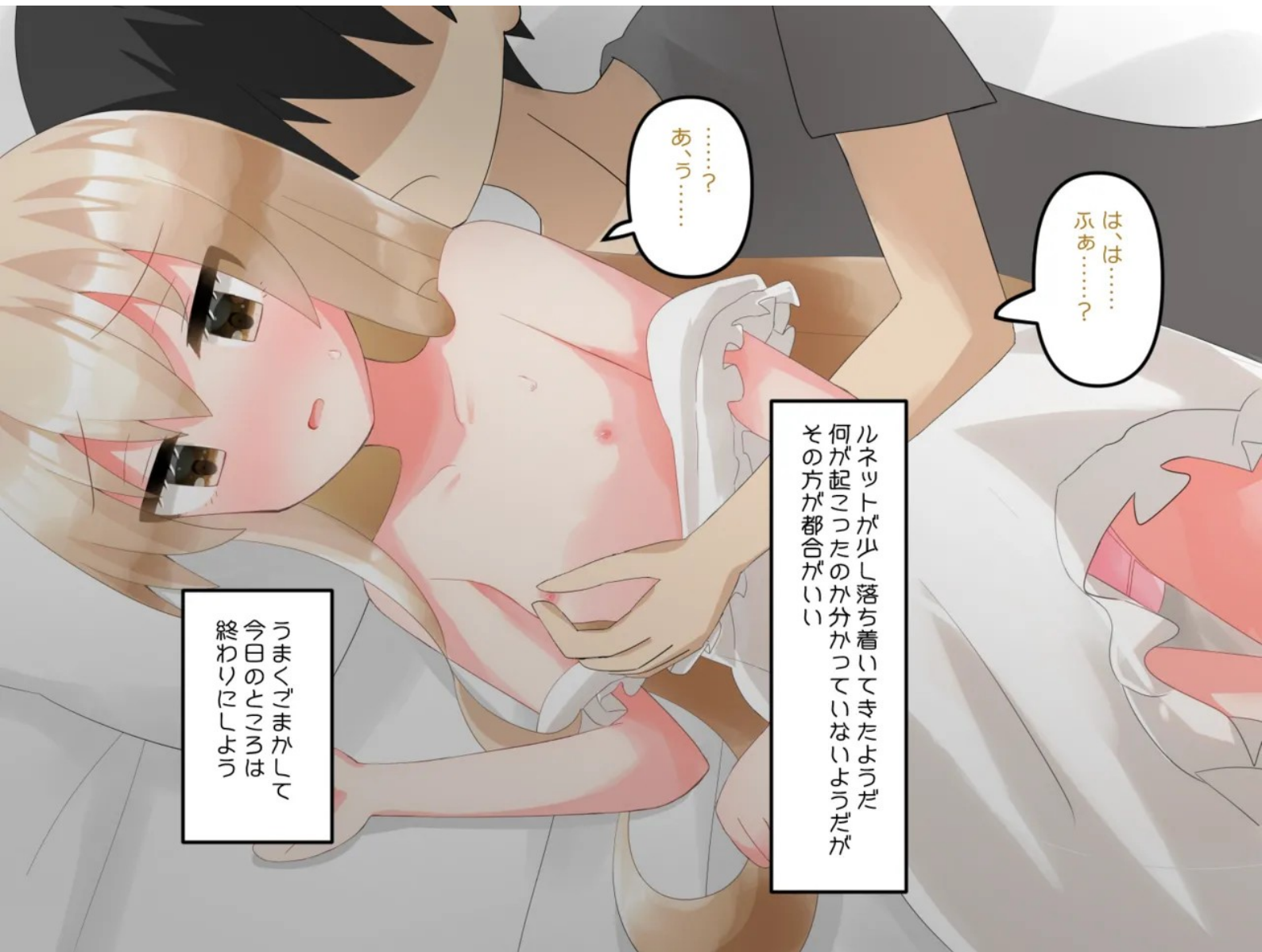
ルネットの柔らかいお尻に  
押し付けながら  
射精——っ!

パンツの中で精液が全部ぶちまけられる  
射精中もお尻と乳首の感触と  
ルネットの可愛らしいイキ声を味わう

は、んっ……っ  
は、んっ……っ

ルネットの知らないうちに  
性的快感を共有したことへの興奮が  
満足感を底上げする



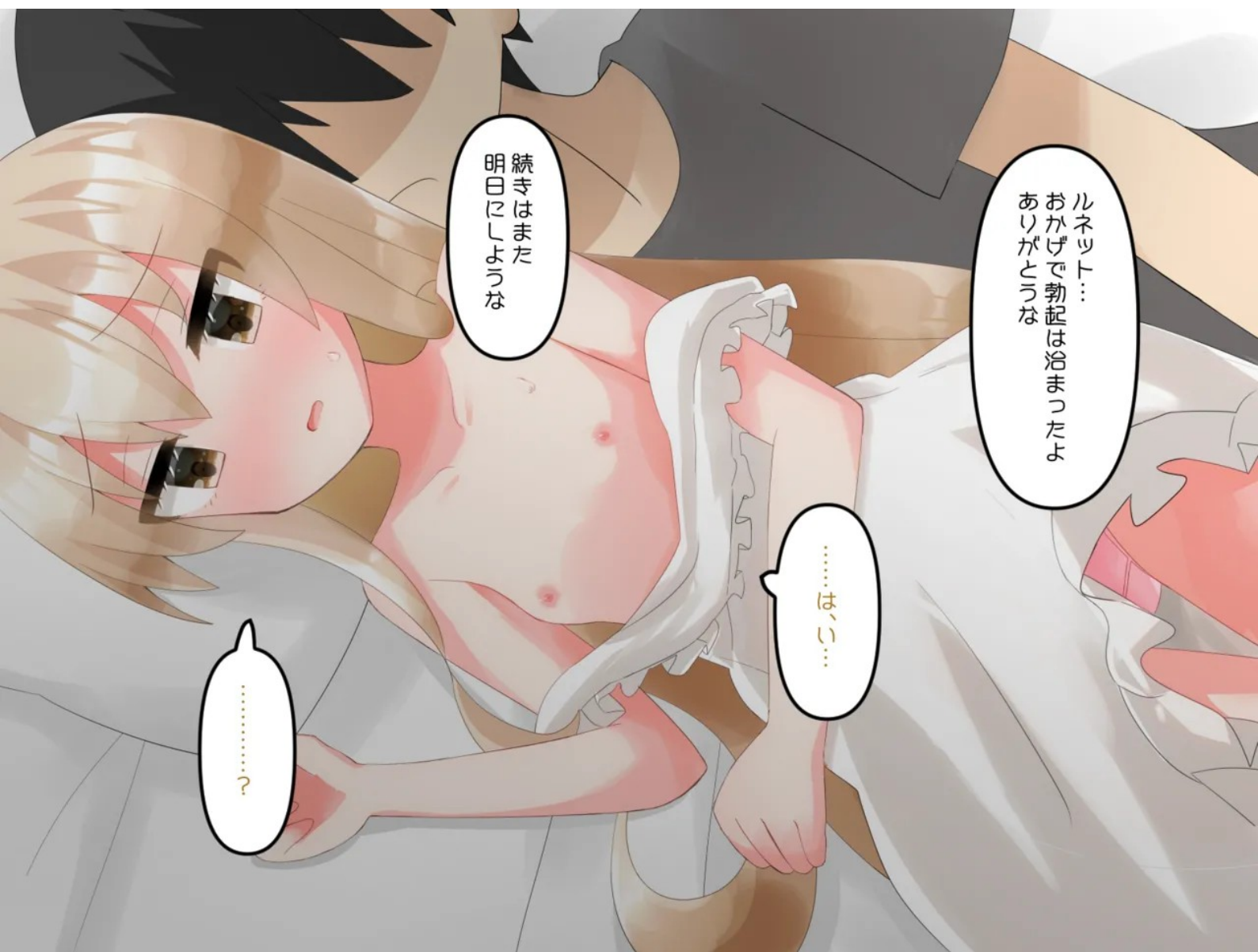


……？  
あ、う……

は、は……  
ふあ……？

ルネットが少し落ち着いてきたようだ  
何が起ったのか分かっていないようだ  
その方が都合がいい

うまくまがして  
今日のところは  
終わりにしよう

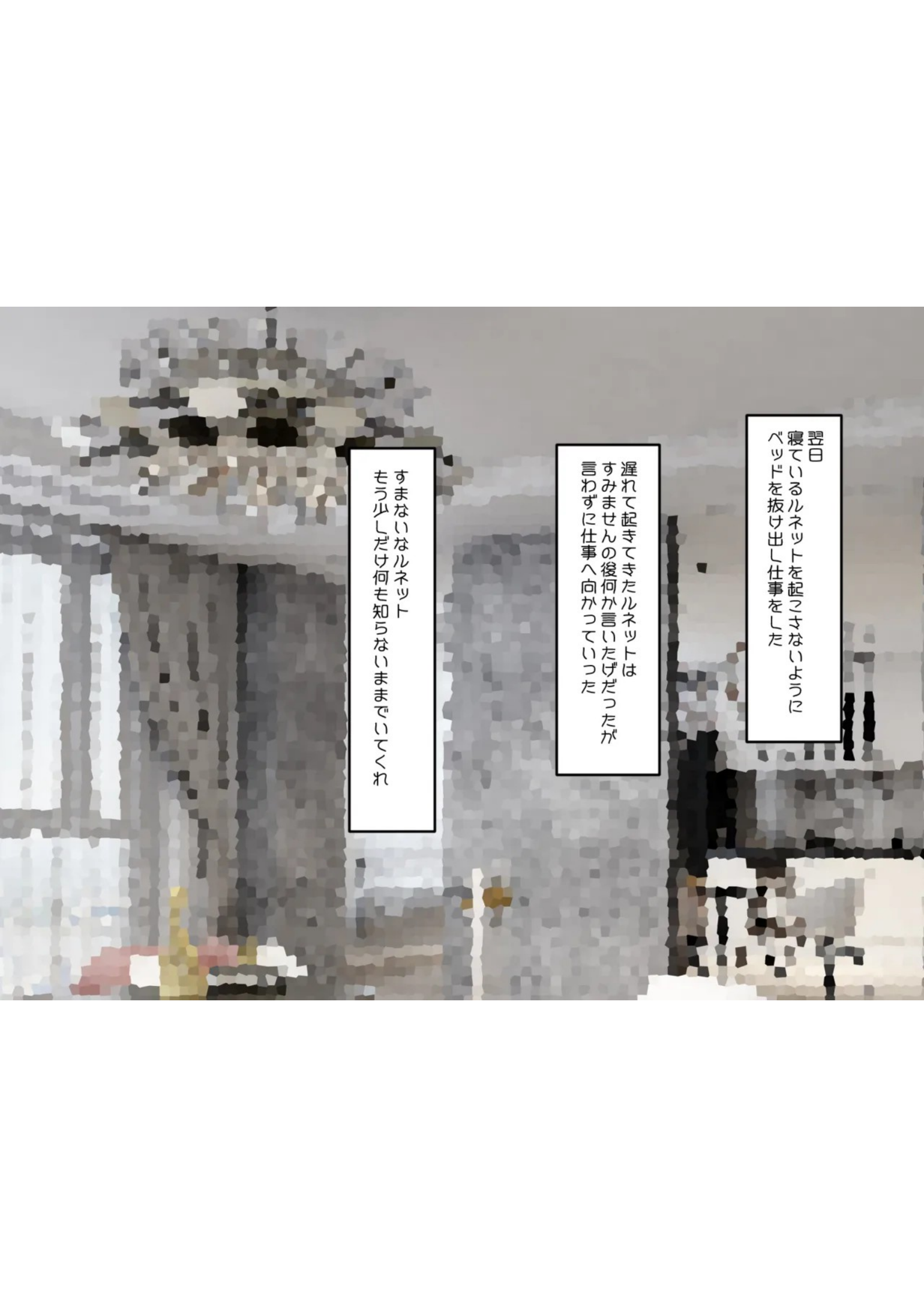


ルネット…  
おかげで勃起は治まったよ  
ありがとうな

続きはまた  
明日にしような

……は、い……

……  
？



翌日  
寝ているルネットを起こさないように  
ベッドを抜け出し仕事をした

遅れて起きてきたルネットは  
すみませんの後何か言いたげだったが  
言わずに仕事へ向かっていった

すまないなルネット  
もう少しだけ何も知らないままでいてくれ

そして夜  
約束通り俺は今日モルネットの部屋に来ていた

.....

昨日よりも少し不安そうなルネットが  
俺をじっと見てくる

どうかしたか？  
ルネット



あの…今日も…  
昨日みたいに…しますか？

ああ、二日続けてすまないが…  
それとも嫌になったかな

…いやでは…  
ないんですけど……

もづもづと口づもるルネット  
昨日の感覚の正体が分からなくて  
困惑しているのだらう



ルネットに手伝ってもらって  
よく効くんだ  
勃起の治療のために協力してくれないか

性的快感についてはごまかしながら  
とにかく治療のためという点を強調する

…はい…  
わかりました…

よし  
じゃあまた  
昨日みたいに寝てごらん

横になったルネットの隣に潜り込む  
昨日やったとはいえ急に触るのは危険だ  
怖がらせないようにしないと

じゃあ…ルネット  
昨日みたいにするけど  
嫌な時は言っていればいいからな

はい……  
ありがとうございます……

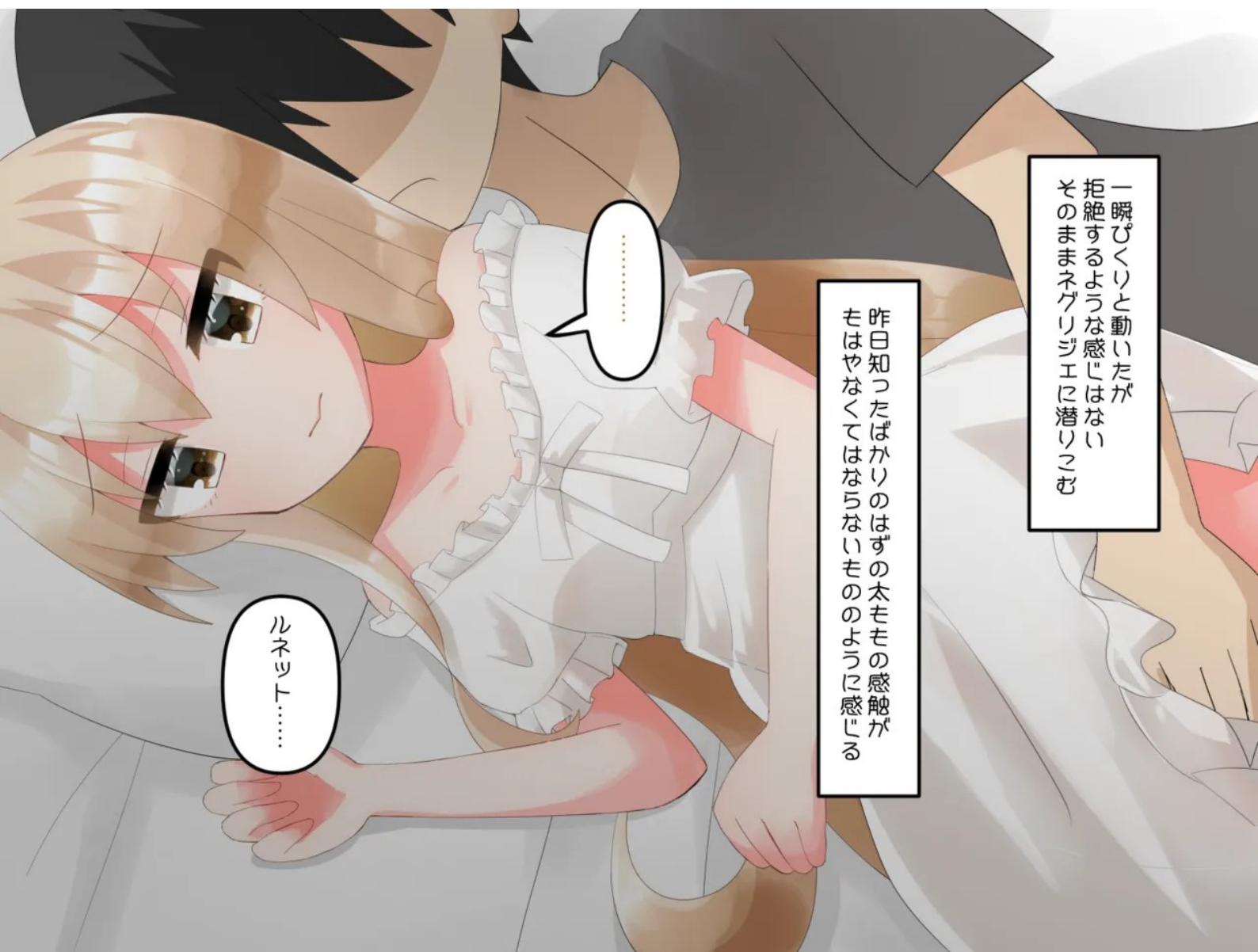
早速太ももを触っていく

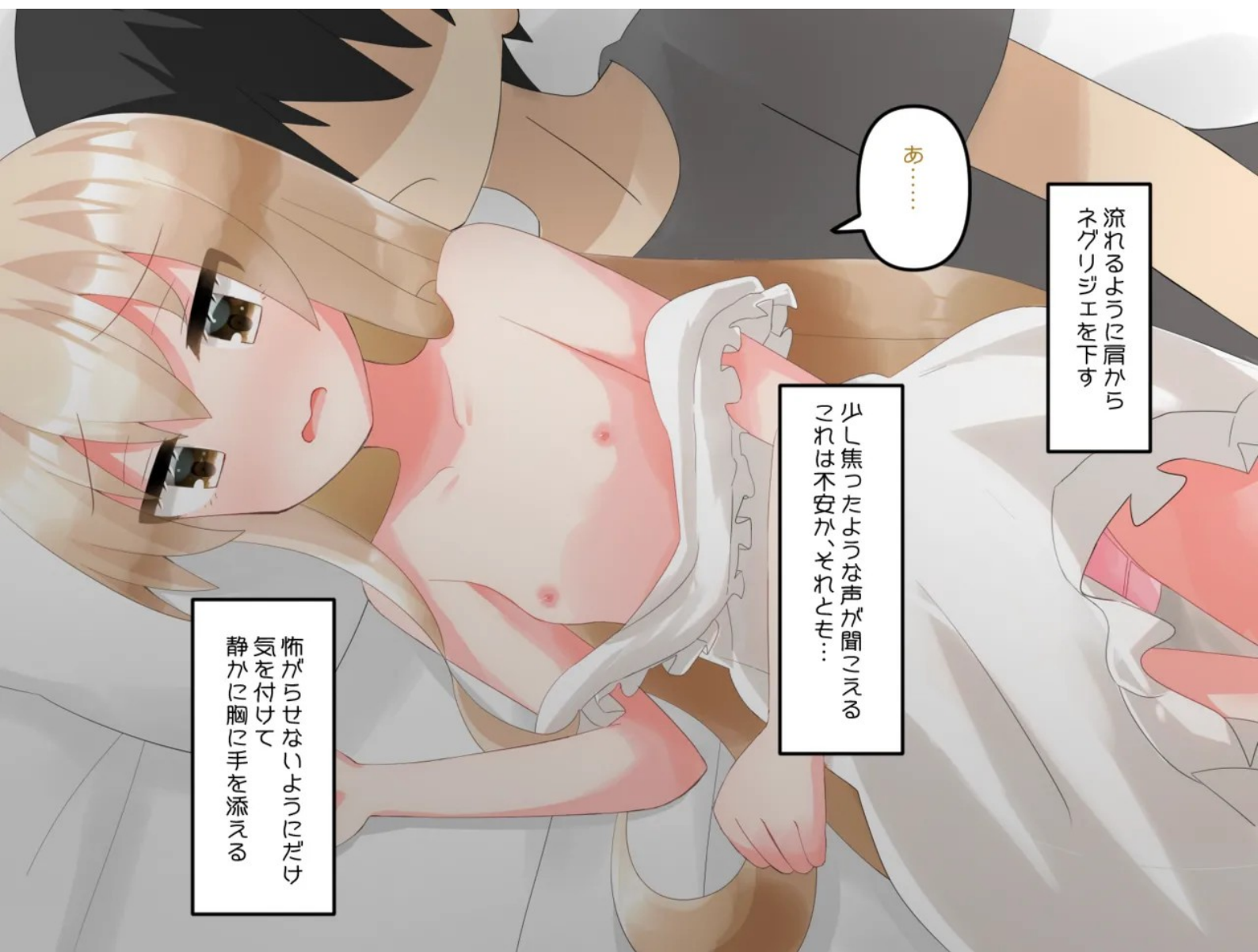
一瞬びくりと動いたが  
拒絶するような感じはない  
そのままネグリジエに潜りこむ

昨日知ったばかりのはずの太ももの感触が  
もはやなくてはならないもののように感じる

.....

ルネェ.....






あ……

流れるように肩から  
ネグリジエを下す

少し焦ったような声が聞こえる  
これは不安か、それとも…

怖がらせないようにだけ  
気を付けて  
静かに胸に手を添える



ああ、柔らかい…  
永遠に揉んでいたい

こんな少女の…膨らみかけのおっぱいを  
好き放題にしたいなんて、こんなことが  
許されるのだろうか

一つだけ言えるのはどんな罰を受けてでも  
揉む価値があるということだ

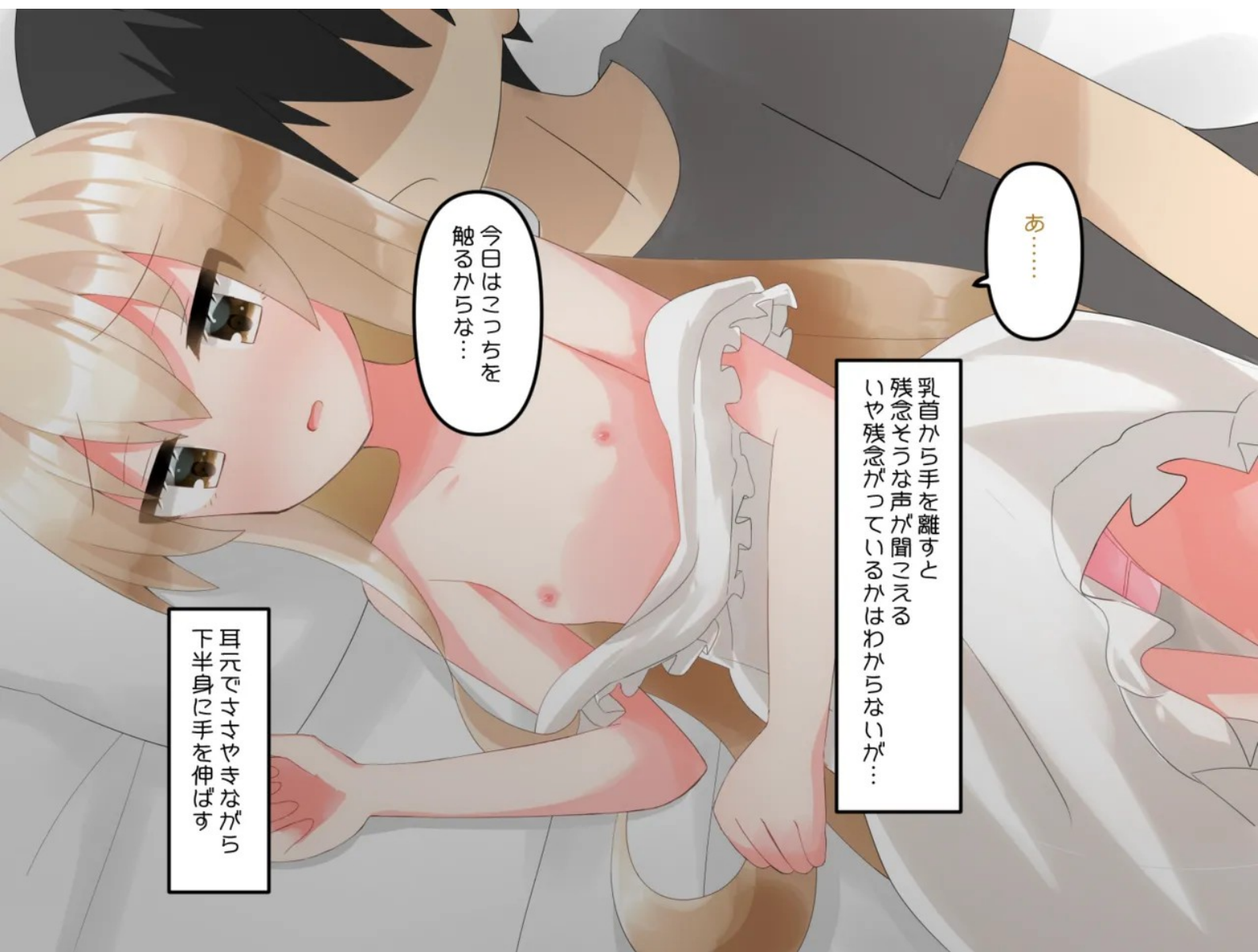
などとくだらないことを  
考えているうちに  
すっかり勃起が完了してしまった

あっ……!

この声がまたたまらない  
自分がなぜこんな声を上げてしまっのかも  
わからないまま、俺を悦ばせるために  
何度もいやらしく喘ぐルネット

乳首をつまむと  
可愛らしい嬌声が聞こえる

ついかがかもりそつになるのを  
なんとか抑える  
今日の目的はこちらではないのだ…



あ……

今日はこつちを  
触るからな……

乳首から手を離すと  
残念そうな声が聞こえる  
いや残念がつているかはわからないが……

目元で女々やきながら  
下半身に手を伸ばす

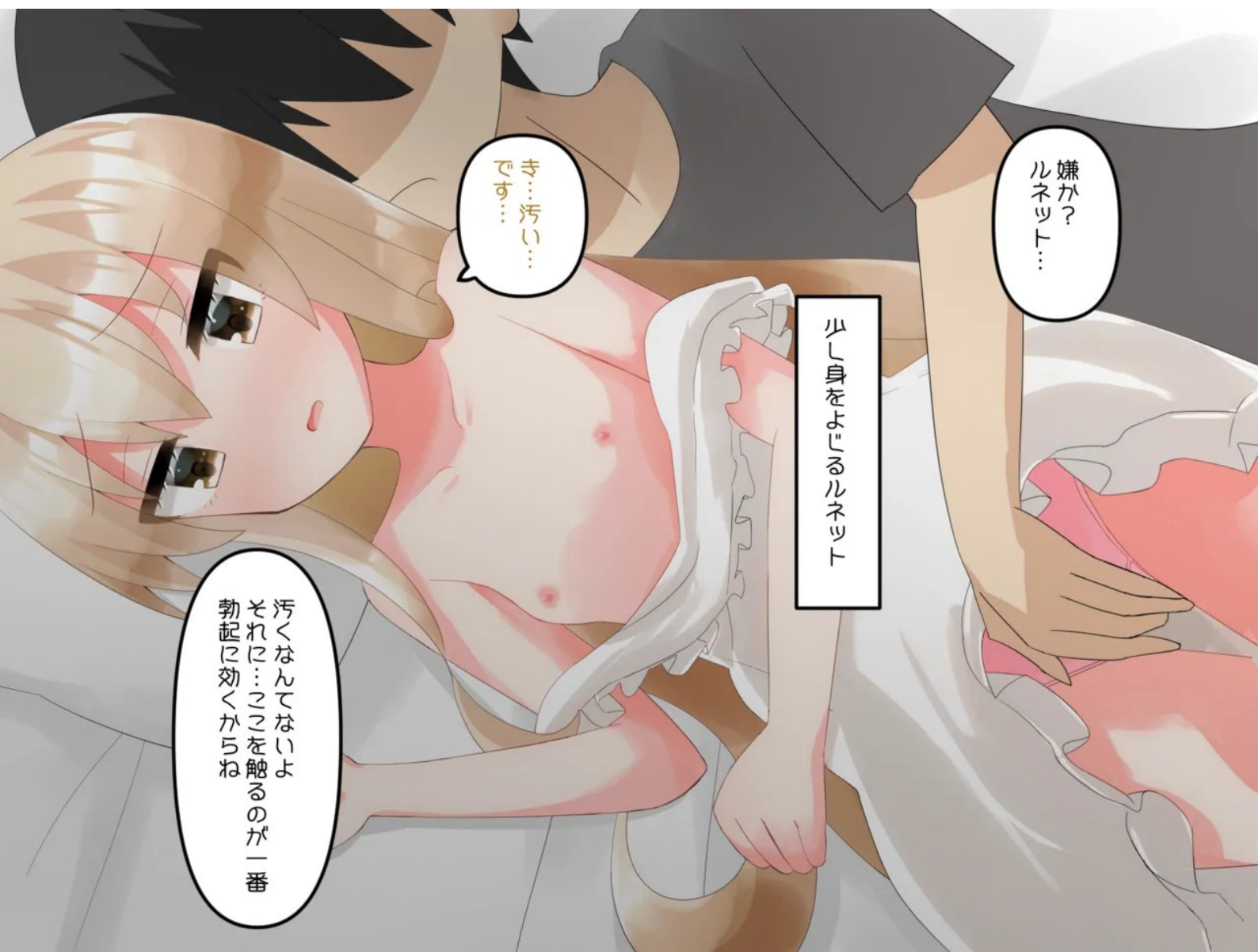


こっち…？  
あっ……！

下着の上からルネットの秘所に触れると  
それだけで上ずった声上がる

わすれがに胸を触れたい  
ぬ、誰だっ…  
ルネットのお母さん…

やん…  
そこは…

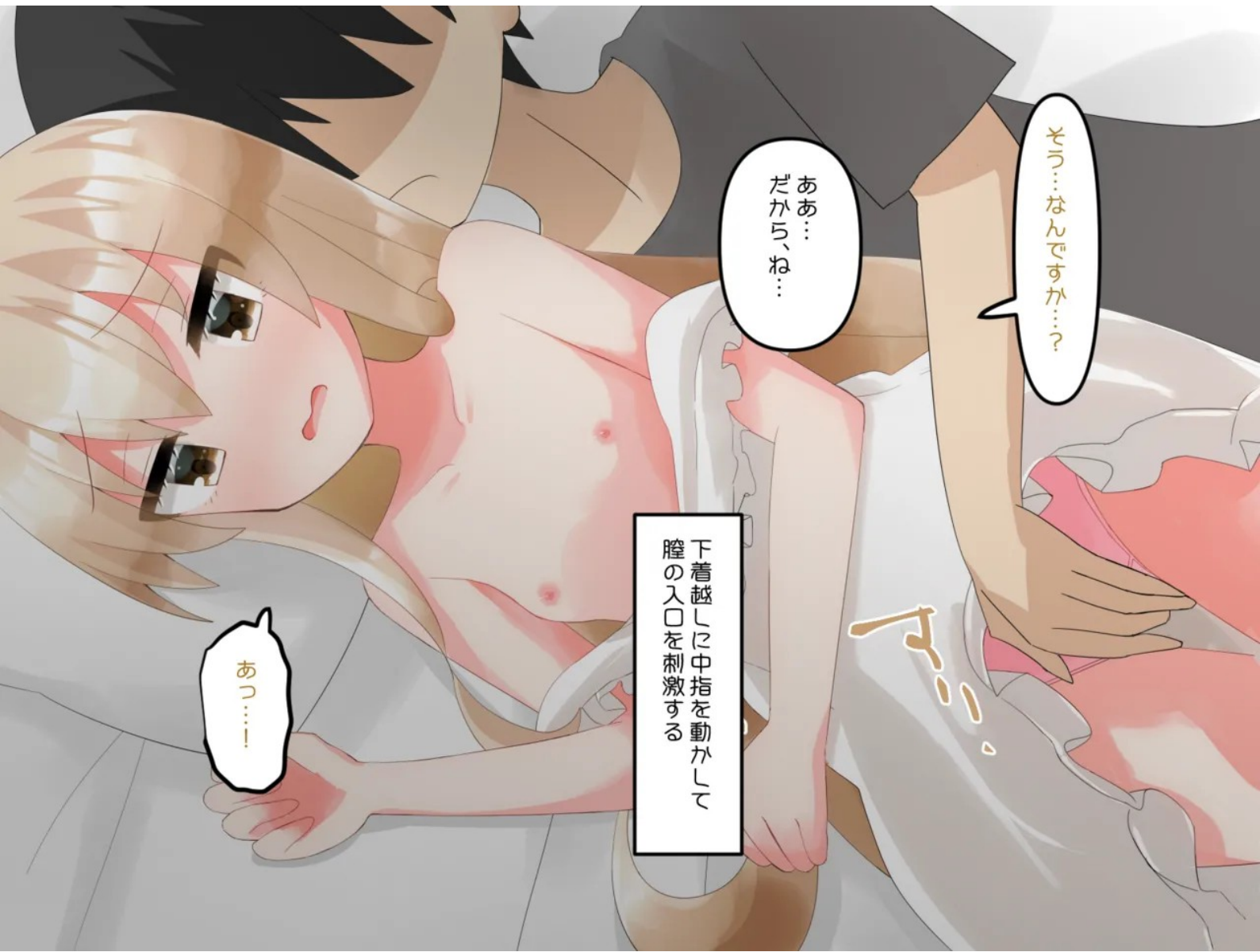


嫌か？  
ルネット…

少し身をよじるルネット

き…汚い…  
です…

汚くなんてないよ  
それに…ここを触るのが一番  
勃起に効くからね



そう…なんですか…？

ああ…  
だから、ね…

下着越しに中指を動かして  
膣の入口を刺激する

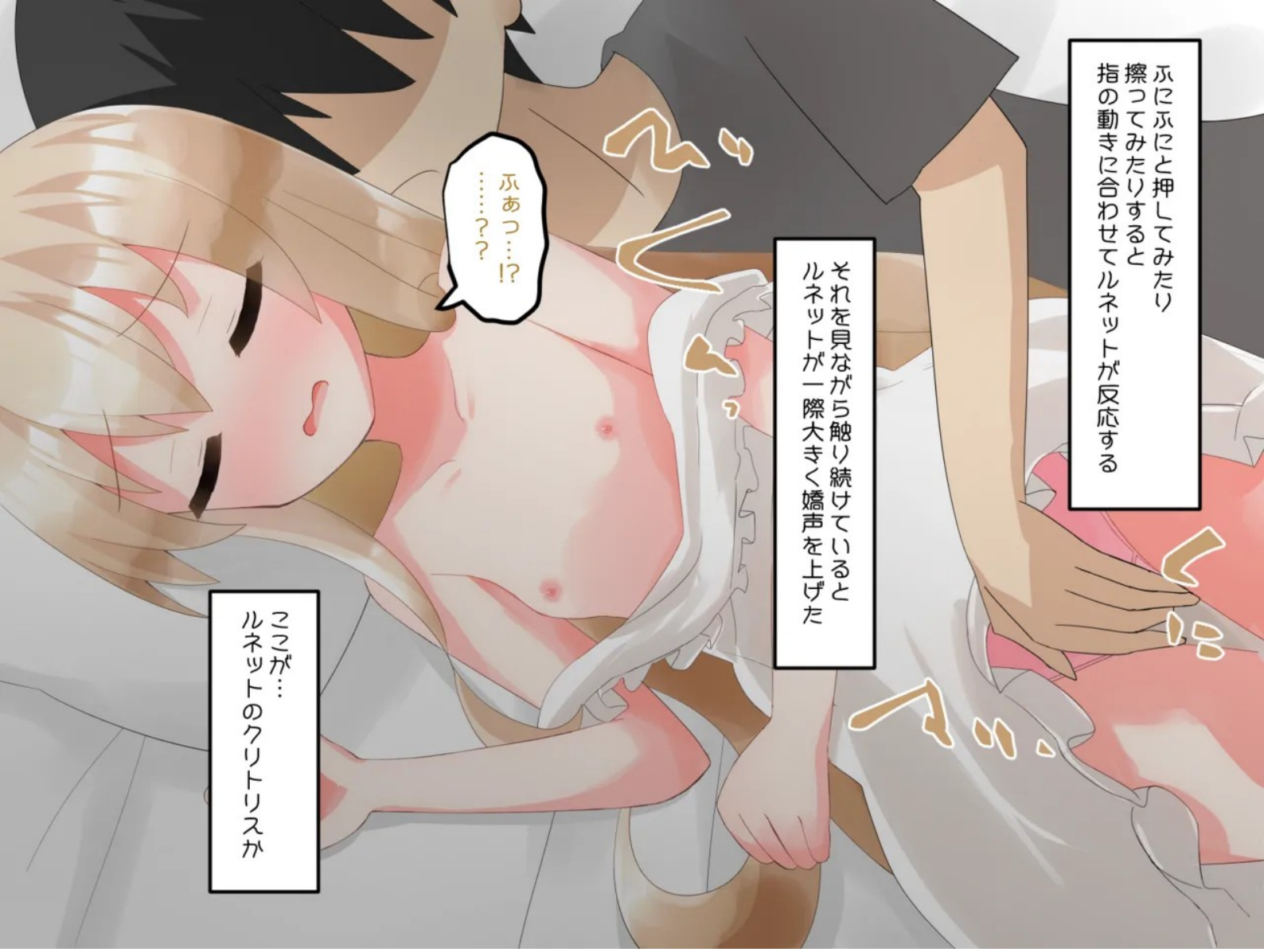
あっ…！

爪に爪にと押ししてみたり  
擦ってみたりすると  
指の動きに合わせてルネットが反応する

それを見ながら触り続けていると  
ルネットが一際大きく嬌声を上げた

爪あつ…!?  
……??

ここが…  
ルネットのクリトリスか

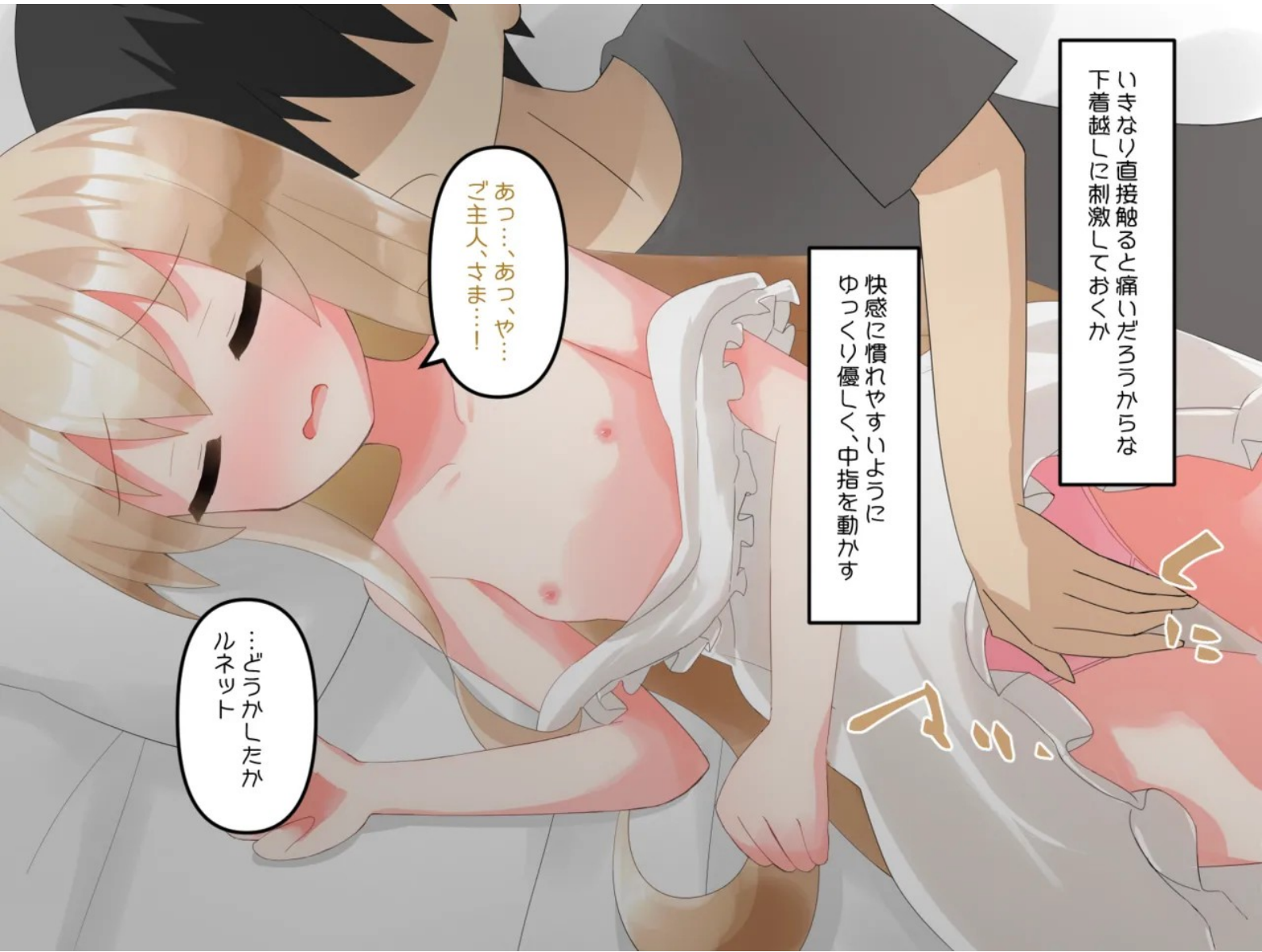


いきなり直接接触ると痛いだろうから  
下着越しに刺激しておくか

快感に慣れやすいように  
ゆっくり優しく、中指を動かす

あつ…、あつ、や…  
ご主人、さま…!

…どうかしたか  
ルネット





そこ…  
そこ…  
そこですよ…

嫌なのか…?  
あまりそうは感じないが…

あつ、あつ…んっ  
で、も…

どんな風に  
嫌なんだ?



えっ、と……  
頭が……ぼーっとして……

あつくなくて……  
変な気持ちに……なります

変な気持ち……？  
もしかしてルネット  
気持ちいいの……か？

気持ち……いい……？

俺の勃起を治すために  
ご奉仕してゐるのに  
気持ちよくなっちゃうなんて…  
いけないメイドさんだな

いけないメイドさんには  
お仕置きしないとイケないね…

す、すみませ…  
あっ……



下着を取り去ると  
ルネットの可愛らしいおまんこが  
さらけ出される

ご主人さま……

たくさん気持ちよくなろうな……ルネット

え……？  
あ……っ

ルネットのおまんこに指を這わせる  
ぬるっとした感触が中指にまとわりつく

初めて直接触れたルネットの秘所は  
この世の何よりも柔らかく、ふにふにですごく熱い  
そしてルネットの最奥から溢れた愛液で  
いやらしく濡れていて…

あっ……！  
ごっごっごっ……

割れ目に沿って指を動かすと  
ルネットが可愛らしい声を上げる

ぬるっ…

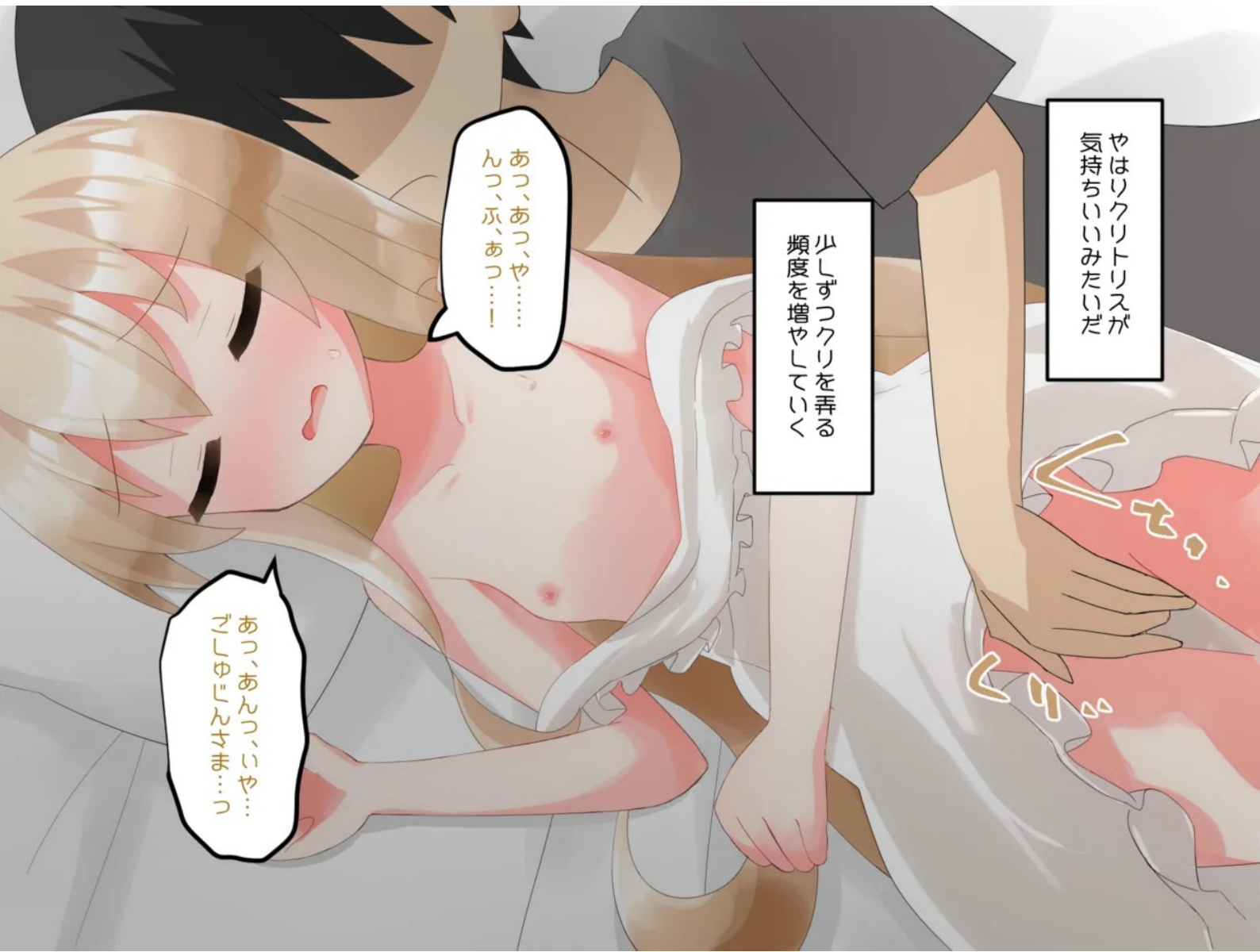
入口を弄りながら  
ぬるぬるの指で  
クリトリスをかすめる

一際大きく反応するルネット  
一旦割れ目に戻り…また  
クリトリスに触れる

あっ、んんっ…!!

んっ、ん…っ  
ふ、う…あっ!





やはりクリトリスが  
気持ちいいみたいだ

少しずつクリを弄る  
頻度を増やして行く

あつ、あつ、や……  
んっ、ふ、あつ……!

あつ、あんっ、いや……  
ご「ゆ」に「な」ま……っ



どうした？  
ルネット

あつ…ん…  
そこ、だめです…  
そこ…

だめ…？  
嫌なのか…？

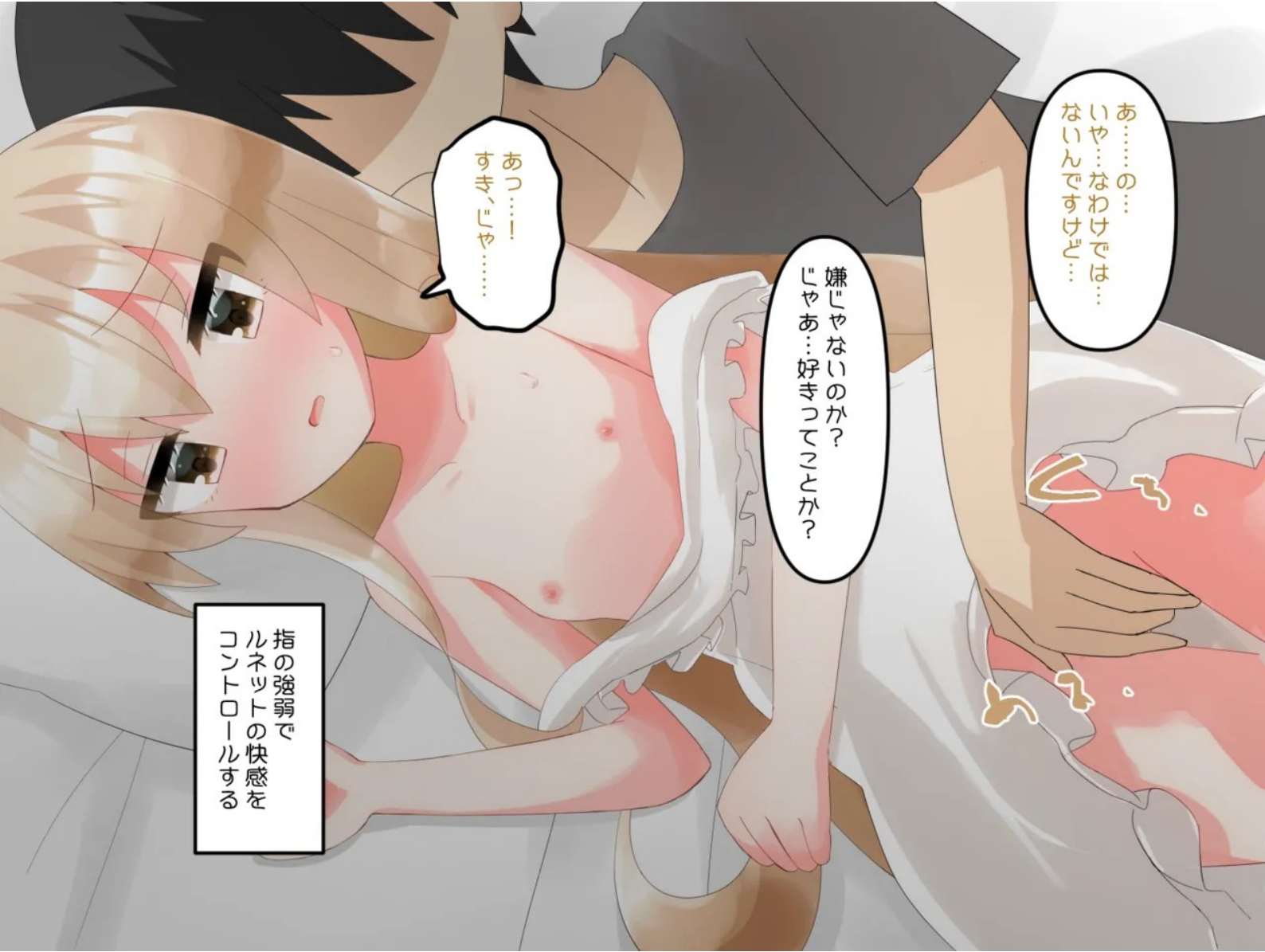
わざと力を弱めて  
もどかしい刺激を与えてやる

あ……の……  
いや……なわけでは……  
ないんですけど……

嫌じゃないのか？  
じゃあ……好きってことか？

あっ……！  
すぎ、じや……

指の強弱で  
ルネットの快感を  
コントロールする



好きじゃないのか？  
じゃあやつぱり嫌か？

んっ…やあ…  
いや…では…

腰をくねらせながら  
俺の指に押し付けてくる

それに応えるように  
クリトリスを刺激してやる





あつ、あつ……！  
あんっ、べしゅっ……ママ……っ

ルネット……  
ここ好きか……？

クリトリスくっくっくっくっの  
気持ちいいか……？

あつあつ、あつ……  
べしゅっママ……！

くっ  
べしゅっ……



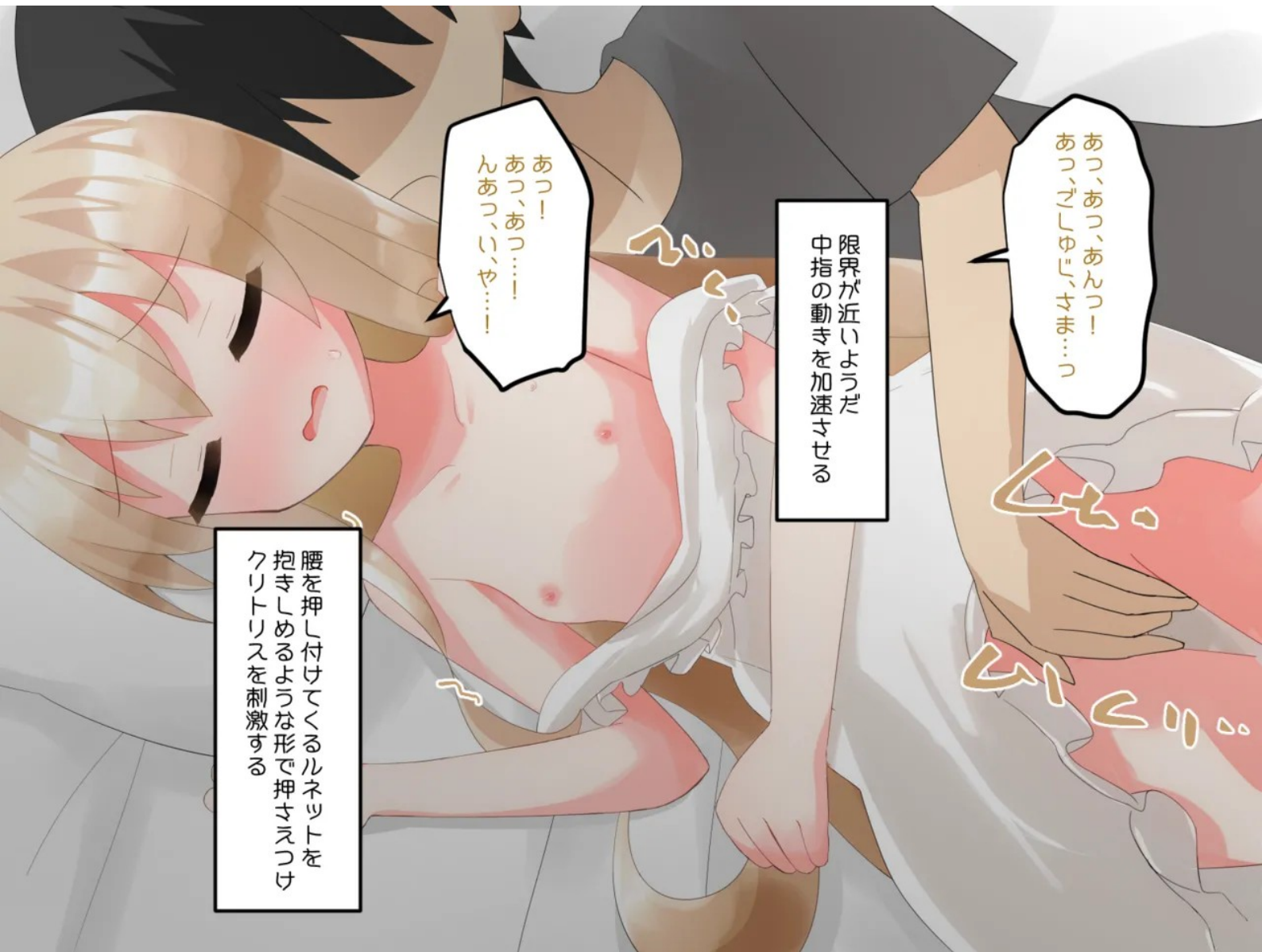
あつ…きもち、い…  
きもち、いいです  
ごしゅじんさま…!

気持ちいいか？  
ここ好きか…？

あつ、あつ、すき、です…  
すき…  
あつ、そん、すき…!

びくびくと  
肩や腰が跳ねる

くわ…  
わい…



あっ！  
あっ、あっ……！  
んあっ、いや……！

限界が近いようだ  
中指の動きを加速させる

あっ、あっ、あんっ！  
あっ、ぶっ、ゆっ、ま……っ

腰を押し付けてくるルネットを  
抱きしめるような形で押さえつけ  
クリトリスを刺激する

ぐっ  
わっ  
わっ

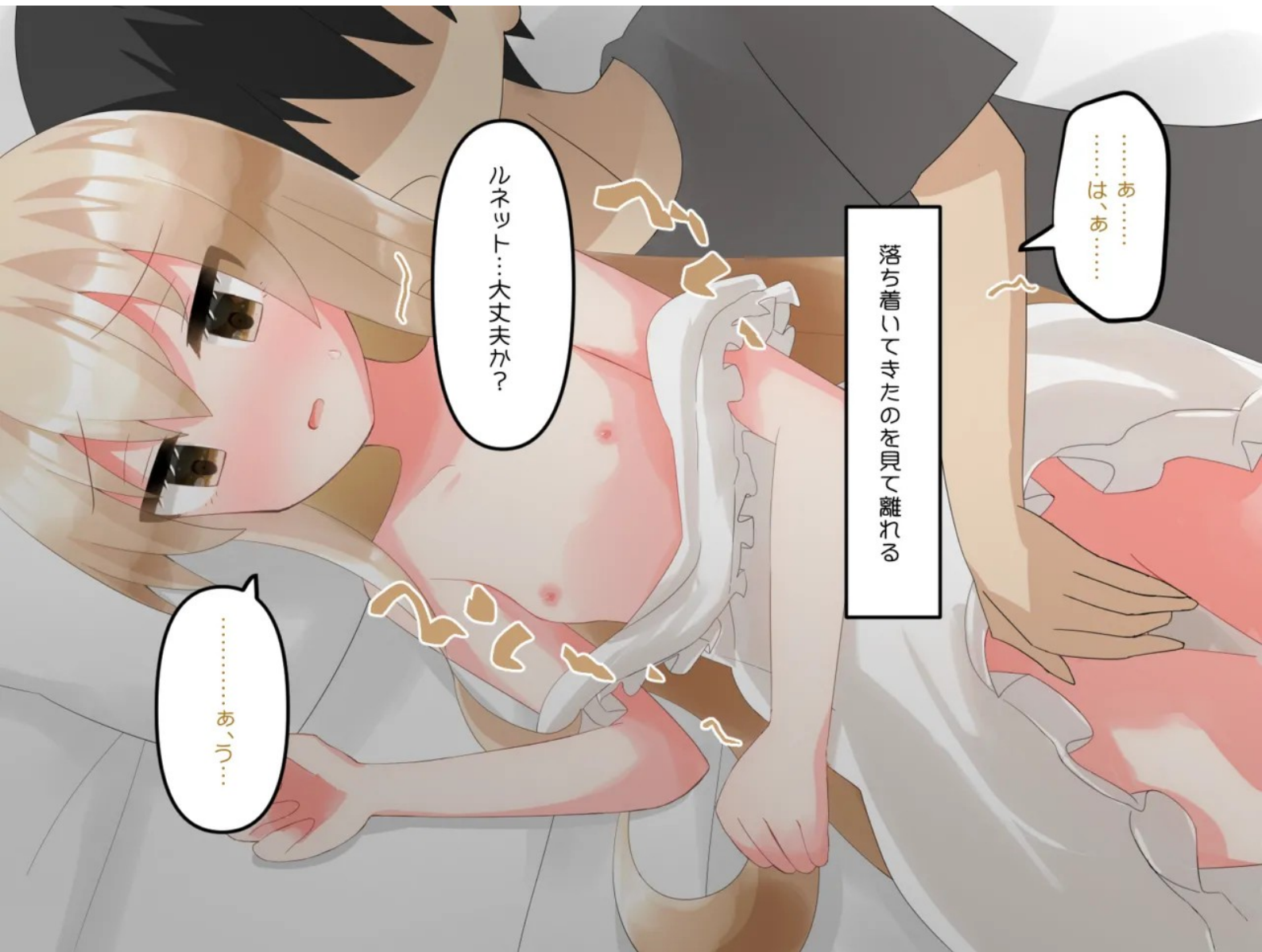


あつ、あつ、あつ……  
んんっ——!!

そのままぎゅっと抱きしめて  
ルネットの絶頂を全身で感じる

びくびくと痙攣しだすルネット  
クリトリスに触れたまま  
イってる最中も快感を与えてやる

……っ!!




ルネット…大丈夫か？

落ち着いてきたのを見て離れる

……あ……  
は、あ……

……あ、う……



今日もこのまま寝るとするか  
パンツがびちゃびちゃだが…まあいい

ルネット…おやすみ

あ……おやす…なさい…

しばらくすると寝息を立て始める  
結構寝つきがいいよな  
などと思いつつ俺も眠りについた


なんとなくルネットを見ながら  
仕事をしたくなったので  
今日は自室の掃除をしてみよう

ふりふりと揺れる髪を見ながら  
だらだらと書類を作成していると  
チャイムが鳴った

.....

急激におどおどしますルネット  
ちよっと面白いが、来客対応はまだ早そう





宅配便は思っていた通りのものだった  
家にある量じゃ足りないそうだったから  
新しく注文したんだ

結構重いな  
少しはしゃいで買わずにたか  
どのみちルネットには持てなかつたな

そのまま風呂場に持っていき  
空いた場所に置いておく  
…早速今夜使うか

日が暮れてきたのを見計らって  
ルネットに話を切り出す

ルネット  
今日もちよつと  
やってほしいことがあるんだが

は？  
い

掃除はここまででいいから  
片づけて風田場に来てくれるか



脱衣所についたらルネットに指示を出し  
先に風呂場に入る

ちよつと戸惑つてはいたが  
まあ大丈夫だろう  
適当に掃除して通販で買ったものを並べる

マツトつて結構でかいんだな…  
しかしこれがないと背中が痛い  
そしてもう一つの道具をお湯で溶いていく

全裸のルネットが入ってくる  
頭のやつがつけっぱだが…  
その方がメイドっぽいからいいか

俺の隣に寝て、これを使つて  
ここをマッサージしてくれるか

あ、はい……

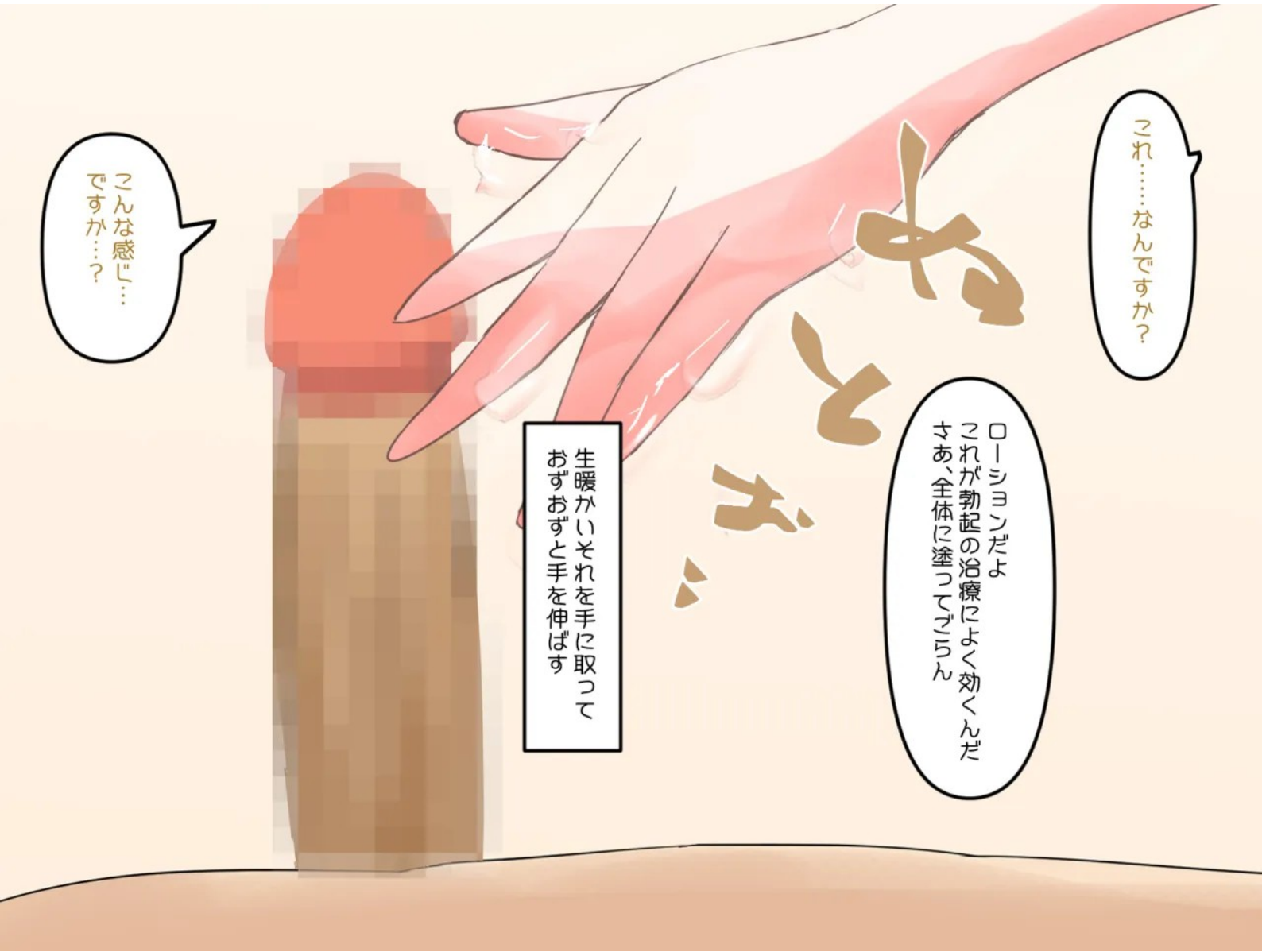
静かに腰を下ろして、それに触れると  
少し驚いたような顔をする

これ……なんですか？

ローションだよ  
これが勃起の治療によく効くんだ  
さあ、全体に塗ってごらん

生暖かいそれを手に取って  
おずおずと手を伸ばす

こんな感じ……  
ですか……？



水の中を泳いでいる  
魚の群れが  
手を握って……

は、は……

ルネットが隣に寝ると  
思ったより顔が近くてびっくりする



.....

おお...

ルネットの身体が一望できる  
光景にぞくぞくする  
とつとつここまでできてしまったか

全裸のルネットがぬるぬるの手で  
ちんぼ握つて、ルネットの乳首や  
おまんこを見ているだけで  
刺激がなくてもそのうち出てしまいそうだ

くっ

えっと…

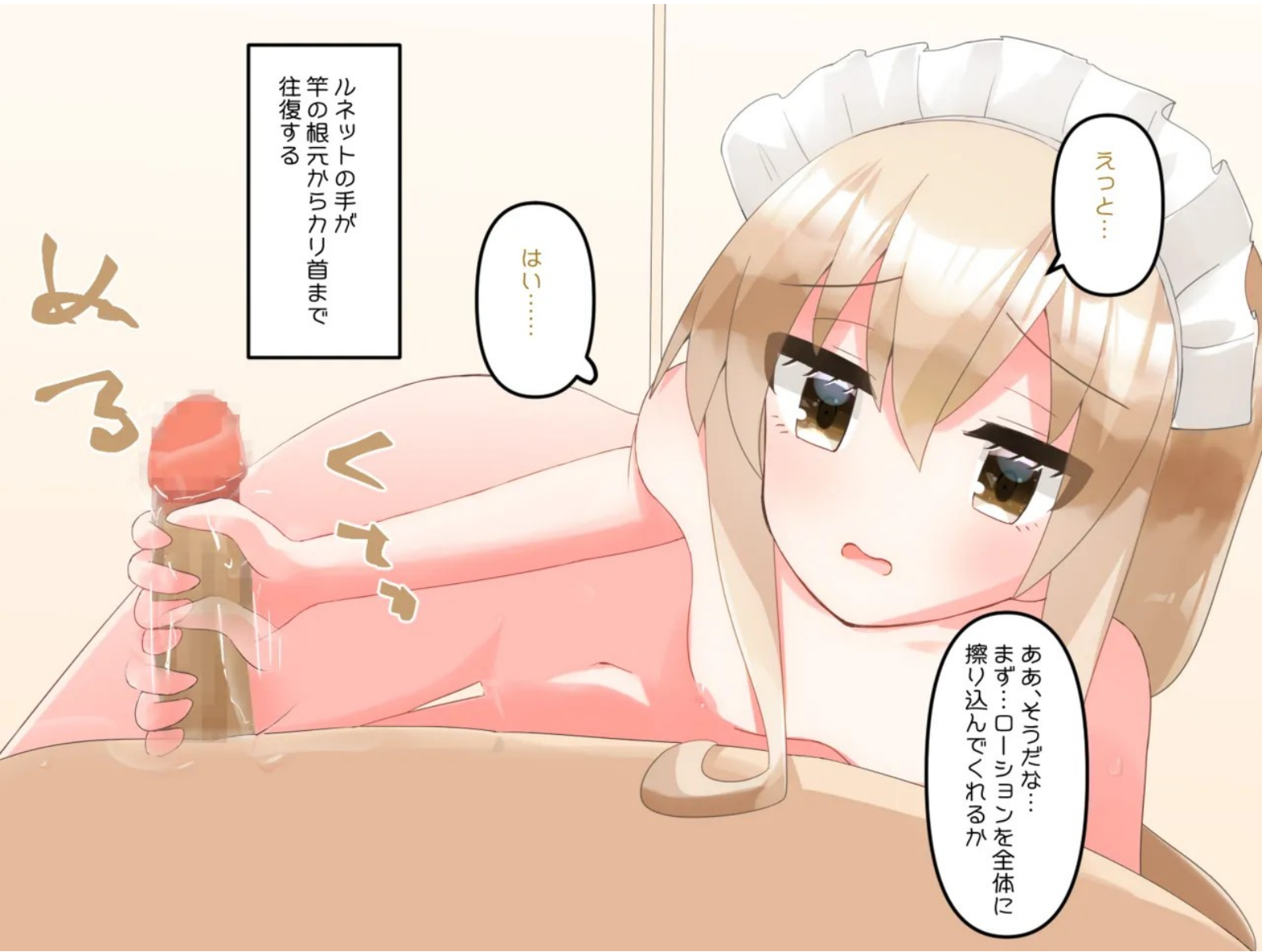
はい……

ああ、そうだな…  
まず…ローションを全体に  
擦り込んでくれるか

ルネットの手が  
竿の根元からカリ首まで  
往復する

ぬる

く  
た  
つ



ローションのぬるぬると  
ルネットの柔らかい手の感触は  
相性抜群で、バキバキに  
かたくなっていくのがわかる

はい……  
どうですか…?

そ、そのまま…  
先っぽの方も  
刷り込んで…

うおっ…!

ぬ  
る

く  
た



ローションまみれの手で  
亀頭をつつまれると  
これまでになく快感が  
脳を直撃する

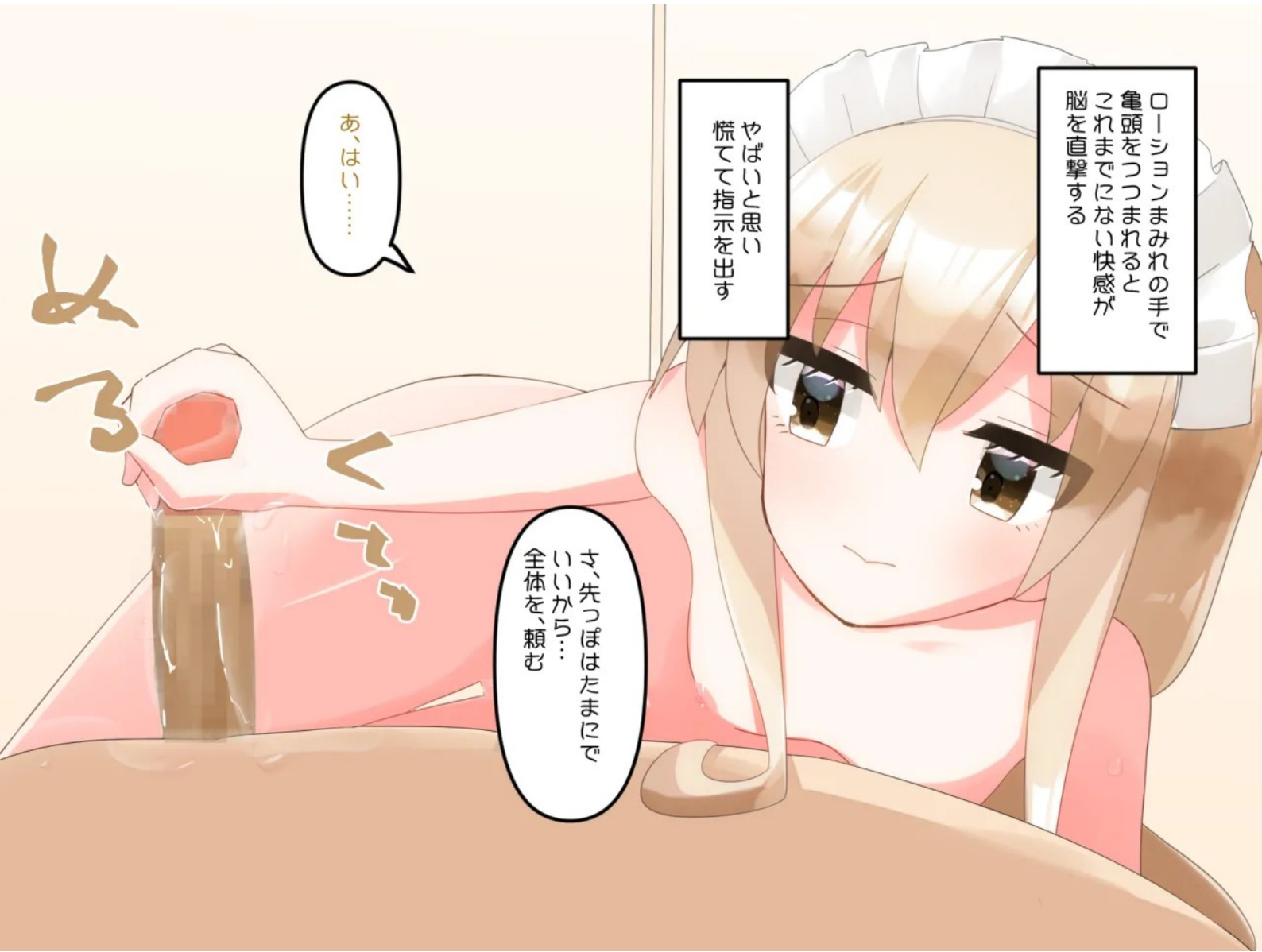
やばいと思い  
慌てて指示を出す

さ、先っぽはたまにで  
いいから…  
全体を、頼む

あ、はこ……

ぬ  
る

く  
たっ



危ないところだった  
もう出そつだった

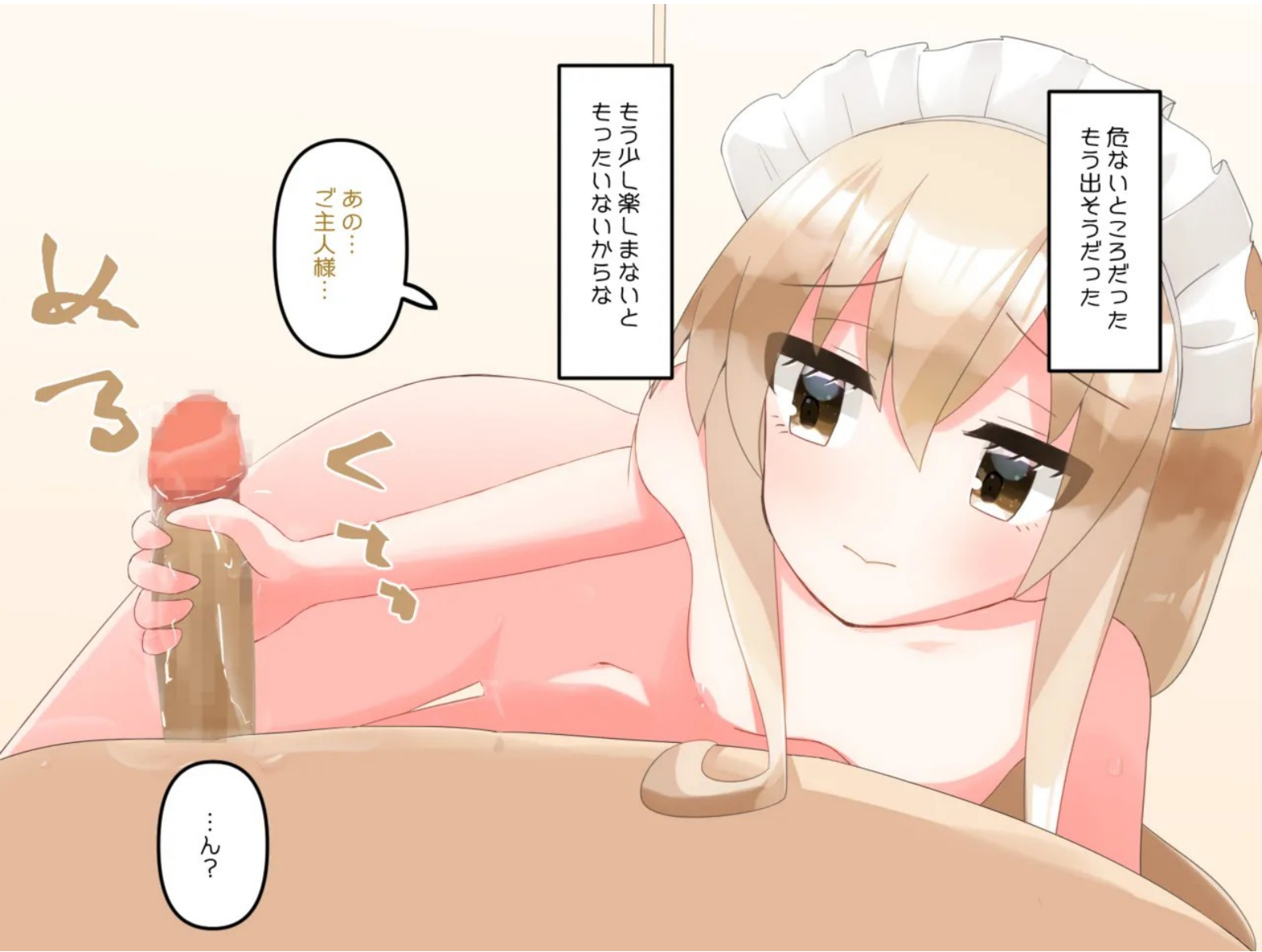
もう少し楽しまないと  
もつたないからな

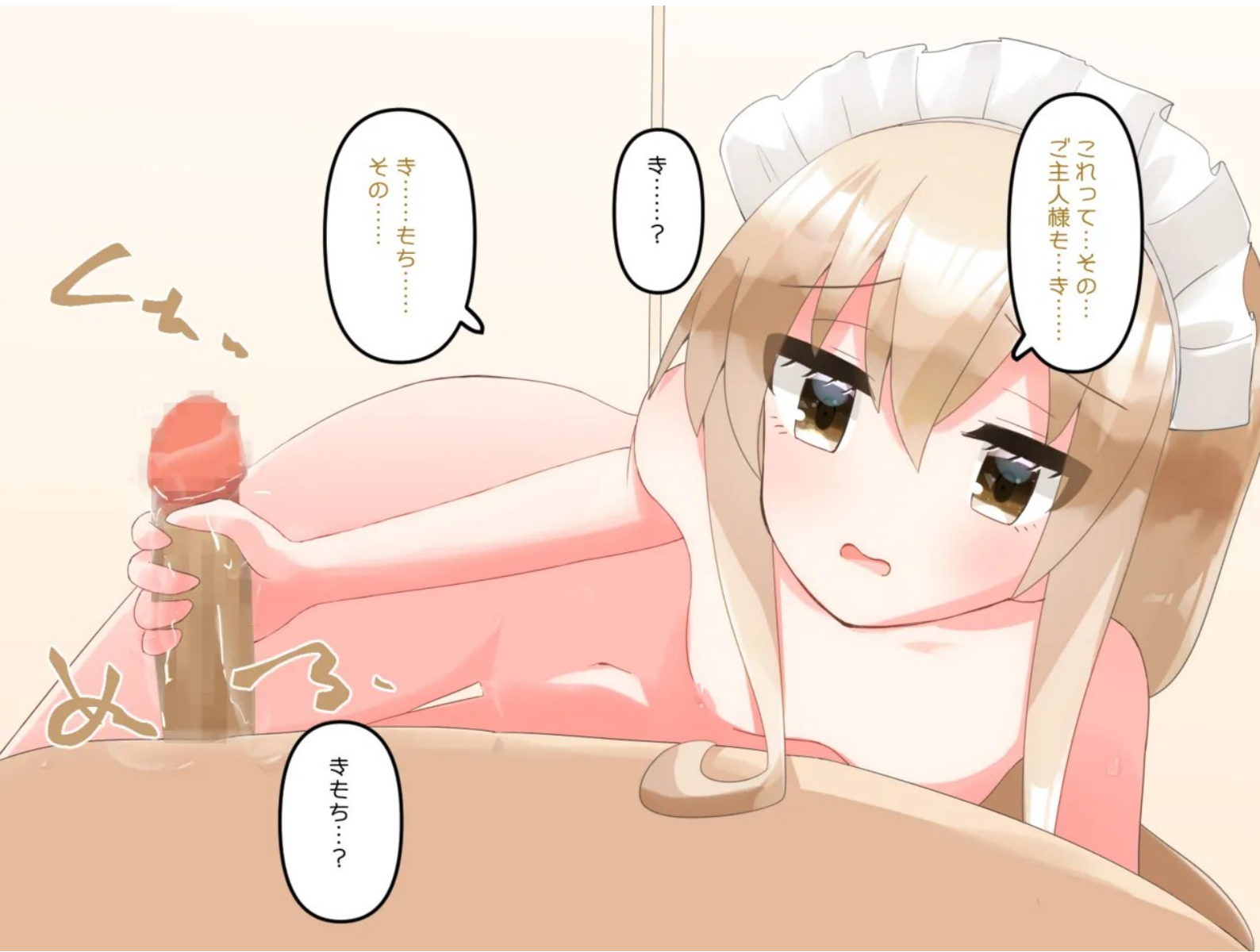
あの…  
ご主人様…

…ん？

ぬ  
る

く  
た  
っ





これって…その…  
ご主人様も…き…

き……?

き……きか…  
その……

き  
きか……?

くま

め



いえ…その……  
治療…ですよね…？

ああ…そうだよ  
勃起の治療だからね

そっ……  
ですよね……

ふう、危ないところだった  
これはあくまで治療で  
変な行為ではないからな…

くま

ぬ

ルネットが動きを再開する  
ぬるぬるの手が  
竿を上下に動き回って…

おっおっ  
ルネット…

……

ルネットと目が合う  
治療と言いつつながら気持ち良くなっている顔を  
ルネットに見られてくる

くま、

ぬる、

さ、先も…たのむ

うっ、お…！

先っぽを包まれてぐちゅぐちゅと  
磨くように動かされたかと思うと  
そのまま竿に戻り、落ち着いたところでもた  
亀頭を包まれる

はい…  
ごう…ですか…？



いつものルネットからは想像もつかないほどの確で  
快樂の強弱をコントロールされて、完全にルネットの右手に  
脳が支配されてしまっている

.....

お、おっ……！  
るおっとルネット……！

龜頭と竿を往復するたび  
カリ首を指の腹が撫でていき  
腰がビクンと跳ねる

くさ  
ぬ



亀頭を撫でながら  
カリ首を親指と薬指で輪っかのように握り  
手首を回して刺激してくる

ただでさえ射精感の高まっていた  
ところに、弱点を攻められて  
一気に込み上げてくる

お、ぐ……！  
は、はあ、あつ……  
る、ルネ……！……！

ご主人様……

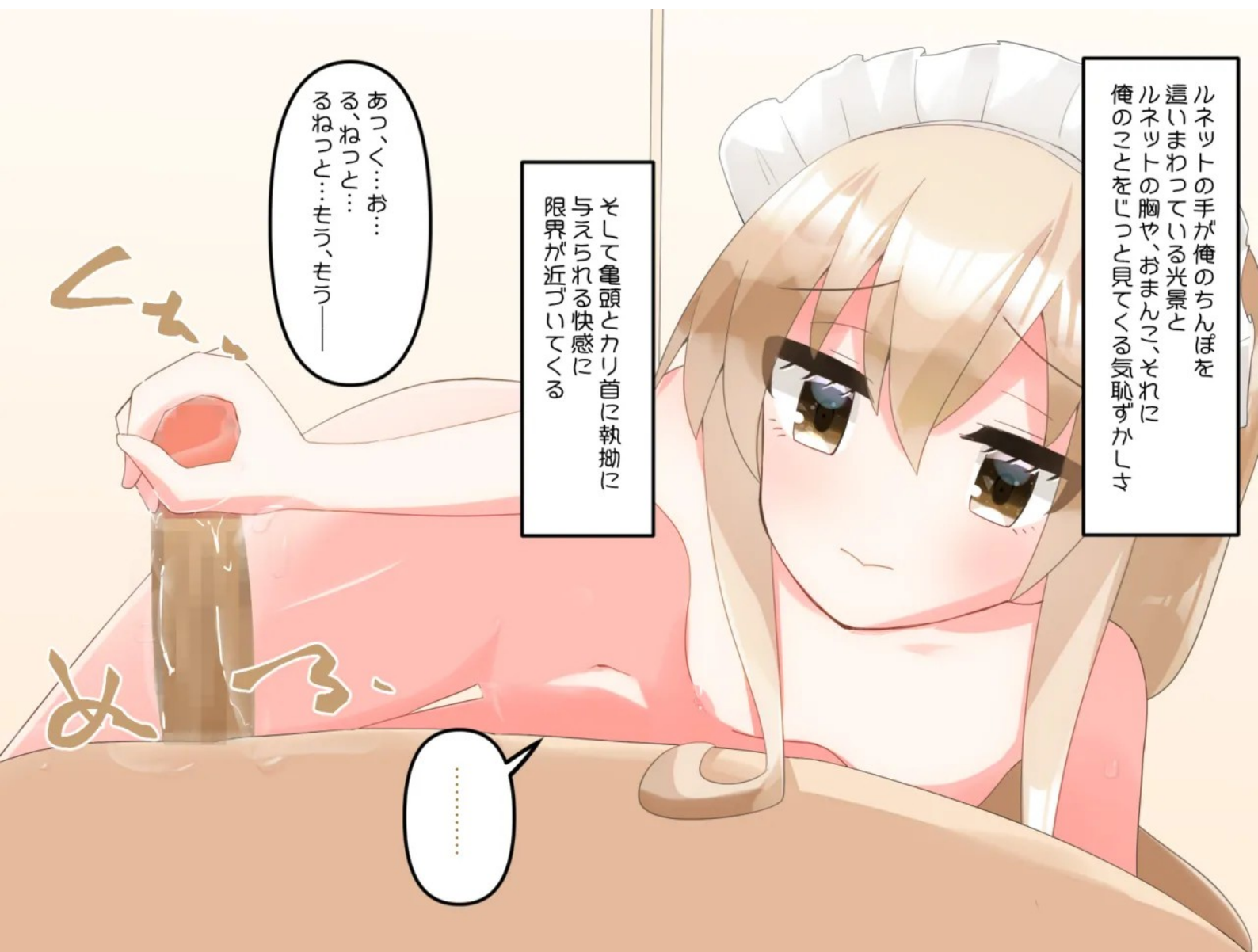


ルネットの手が俺のちんぽを  
這いまわっている光景と  
ルネットの胸やおまんこ、それに  
俺のことをじっと見てくる気恥ずかしさ

そして亀頭とカリ首に執拗に  
与えられる快感に  
限界が近づいてくる

あ、く、く……お  
る、る……  
る、る……き、き、き……

……





あつ……

!!—UWEE……

ルネットの手の中に  
精液がぶちまけられる

ルネットの手に包まれたまま射精……！  
何度しても最高の気分だ

はあ、はあ……はあ……  
ルネット……

……



今日はここまでにするつもりだったが  
ローションと精液で汚れたルネットの  
物欲しそうな顔(願望がもしれない)を見てみると

もうこのまましてしまうか  
という気になってくる

ルネット

はい……

ローションを全身に塗って  
俺の上に乗ってくれるか

…え…

治療に必要なんだ

おそろく嘘だとバシっていると  
思うが今のルネットならきつと受け  
入れてくれるはずだ

わかりました…

そう言ってローションを手に取り  
身体に塗り始めるルネット

ぷるんと揺れる胸を見ていると  
勃起が復活してくる

「じゃあそのまま俺の上で……」



あう……

ルネットの顔が目の前に……！  
全身が密着して、柔らかくて、温かくて……  
ぬるぬるで……

すっかりちんぽが勃起して  
ルネットのおまんこにぴたりと  
くっついてしまう

る、ルネット……  
はあ……はあ……



い、挿入したい…  
ルネットの膣に…  
密着したルネットの体温が  
興奮をどんどんと高めていく

ご主人様…?

ルネット…  
い、挿入れるよ

い……い……い……



ああ…勃起の治療には…  
女の子の…ここにちんぽを  
挿入するのが一番良いんだ

ルネットの入口に  
擦りつける

あつ…  
そう…なんですか？

そう…だから、な  
挿入れるよ…  
優しくするからな…

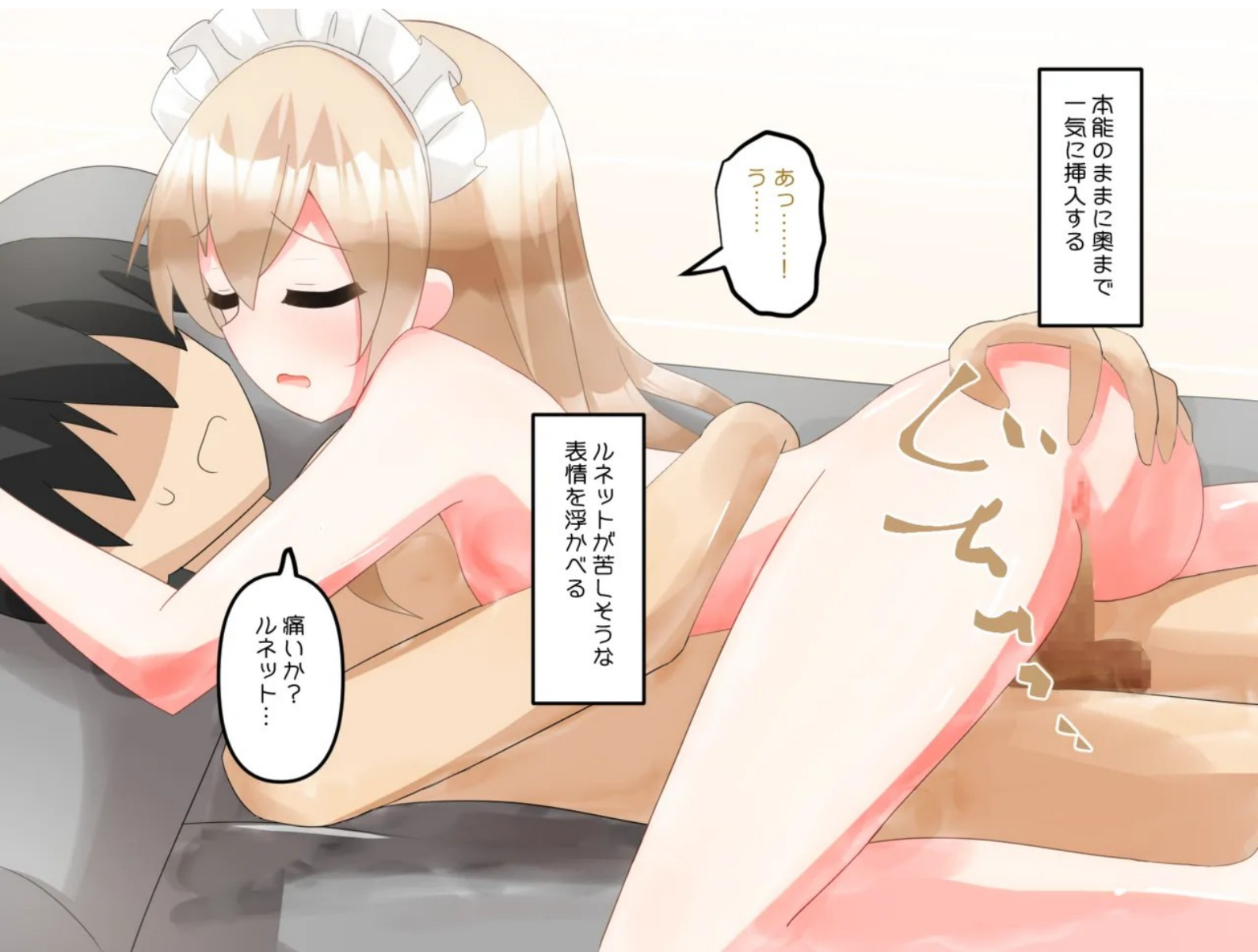


何度も擦りつけて少しずつ  
頭が挿入っていく

ああ…はあ…  
ルネット、大丈夫か？

は…はい…  
大丈夫です…

ローションでぬるぬるのルネットの膣は  
亀頭が少し挿入っただけでめちゃくちゃ  
気持ちよくて…もつと奥までと  
本能が叫んでくる



本能のままに奥まで  
一気に挿入する

あっ……  
う……!

ルネットが苦しそうな  
表情を浮かべる

痛いかな？  
ルネット……



す、少し…  
痛かったような…

少しが  
やはりローションを  
用意して正解だったな

しほへ  
このままでいるか

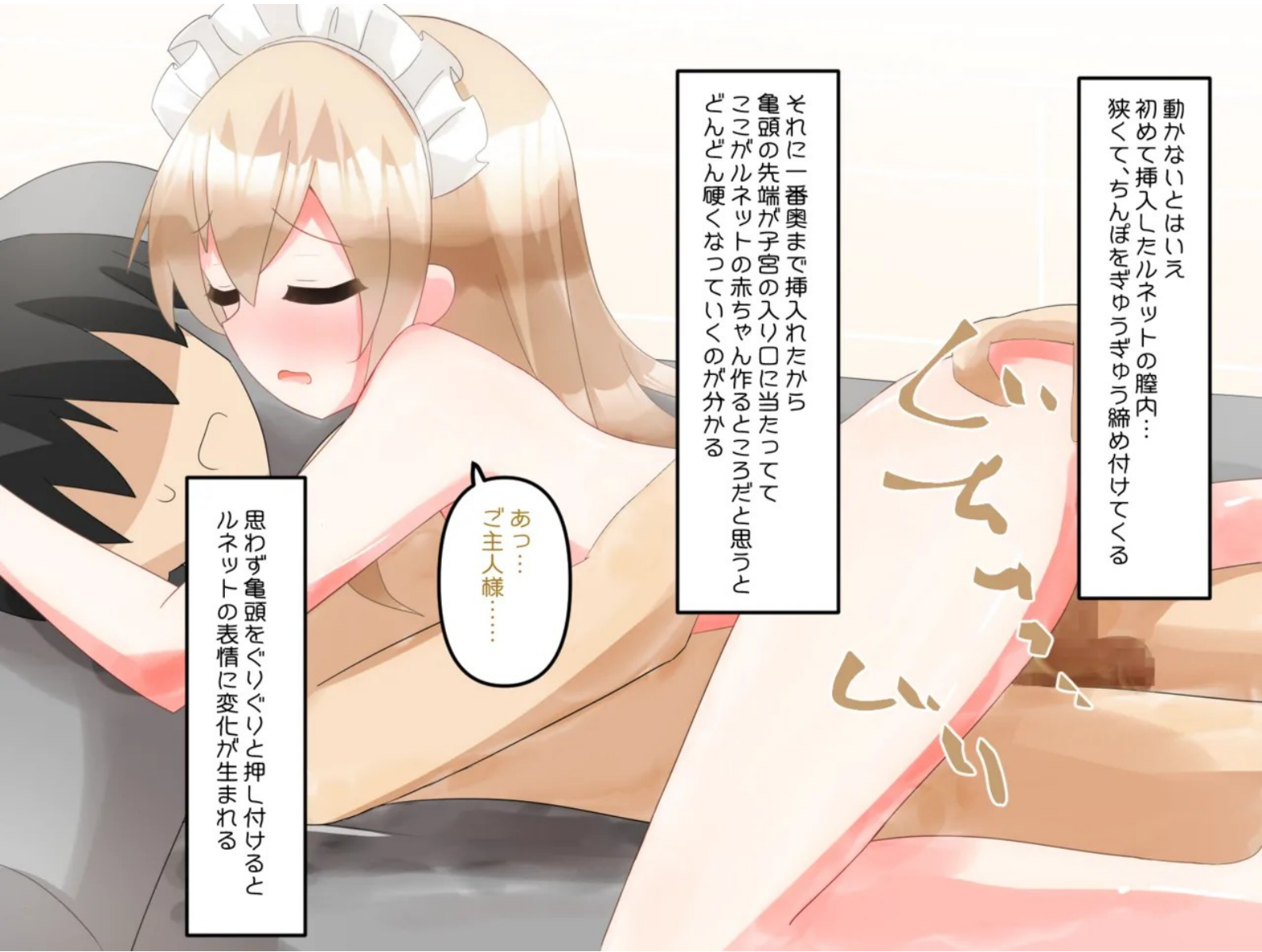
んは、い…  
…い…

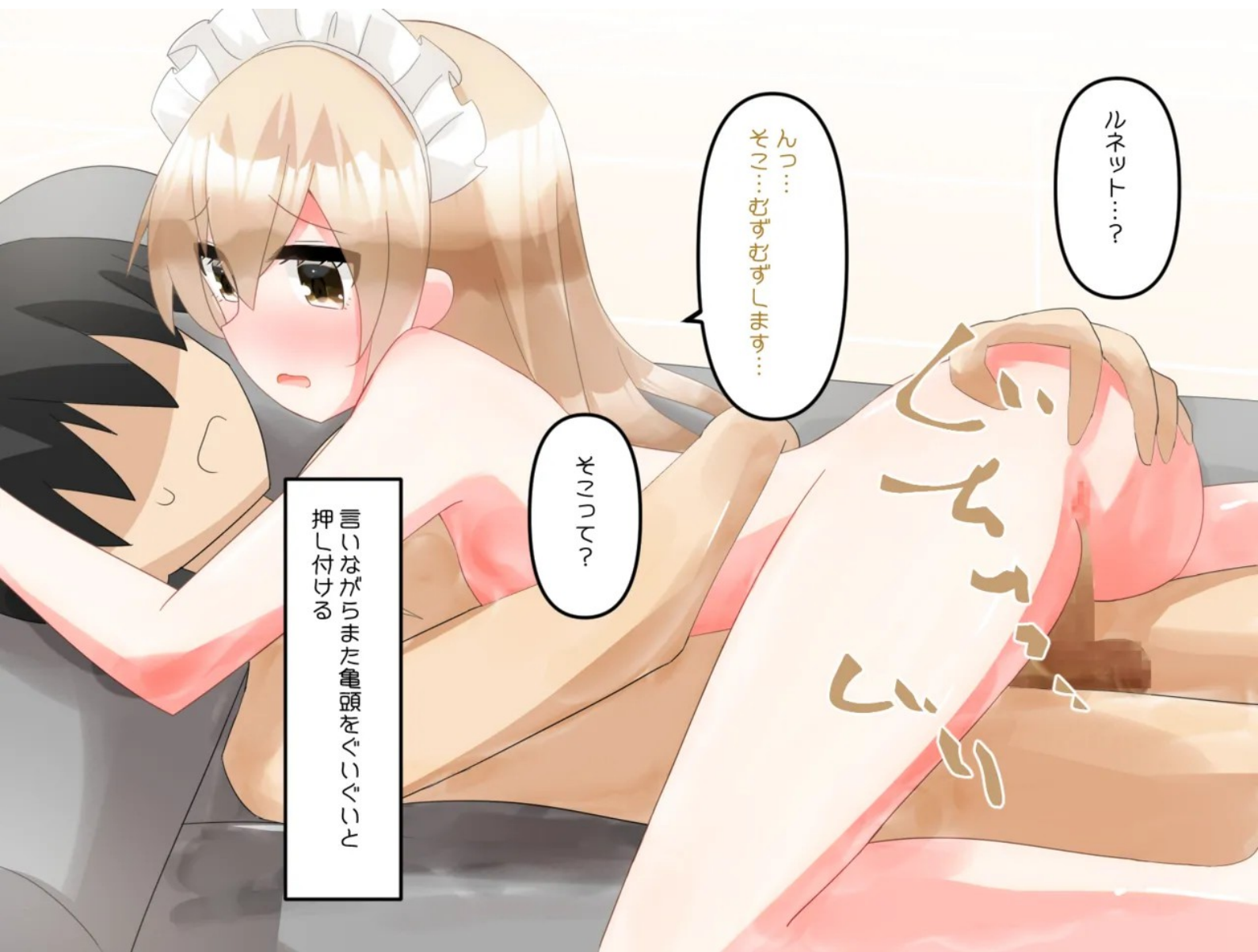
動かないとはいえ  
初めて挿入したルネットの膈内…  
狭くて、ちんぽをぎゅぎゅぎゅ締め付けてくる

それに一番奥まで挿入れたから  
亀頭の先端が子宮の入り口に当たってて  
ここがルネットの赤ちゃん作るところだと思つと  
どんだん硬くなつていくのが分かる

あつ…  
ご主人様……

思わず亀頭をぐりぐりと押し付けると  
ルネットの表情に変化が生まれる





ルネット…?

んっ…  
そこ…むずむずします…

ムムムっ…

言いながらまた亀頭をぐいぐいと  
押し付ける

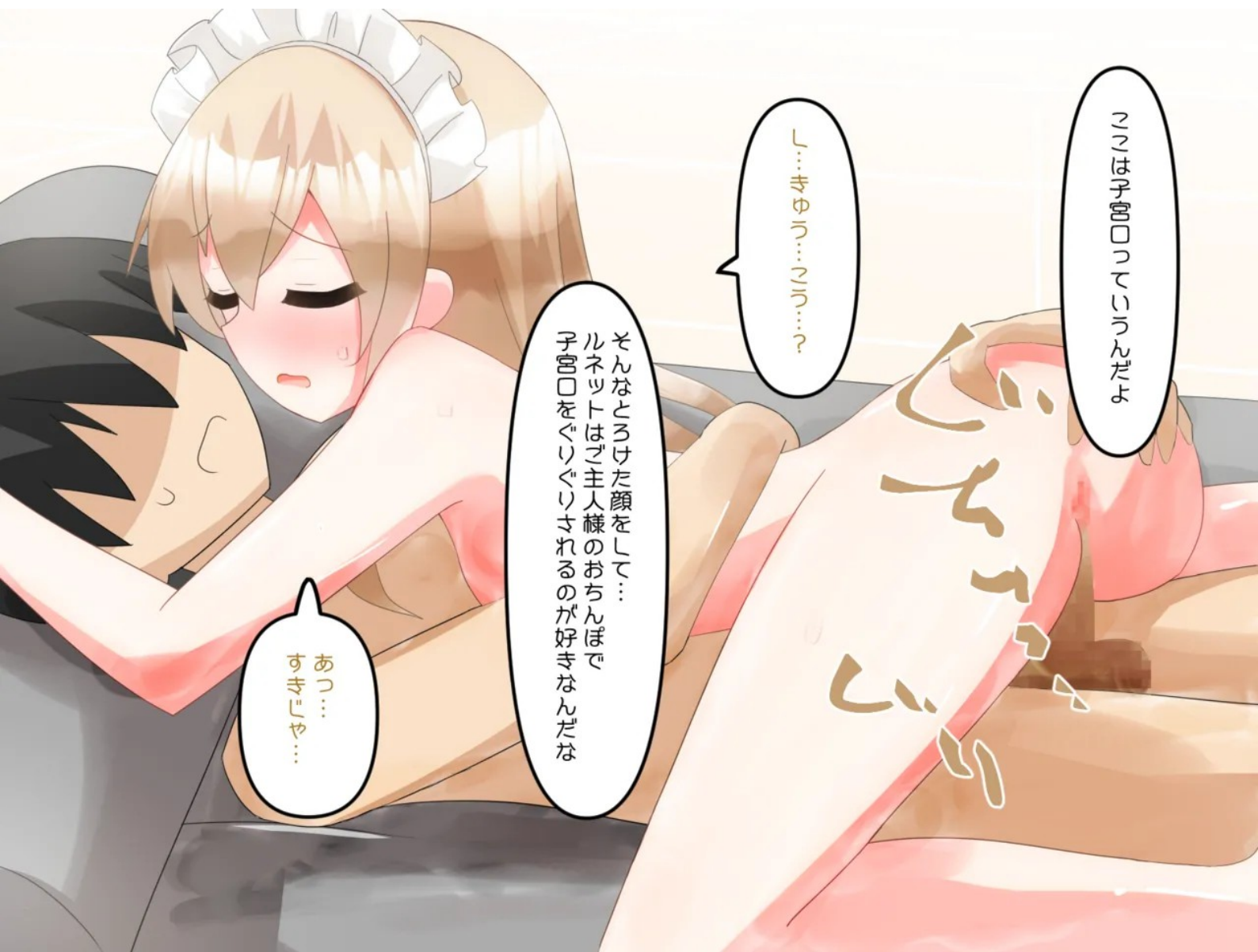


あつ…！  
そこ…  
お腹の、奥…

ここが…？

あつ…んっ…  
ぶしゅじんさま…

子宮口をぐいぐい刺激し続けると  
ルネットの表情がどんどんとろけてこく



ここは子宮口っていうんだよ

「きゅん…きゅん…」

そんなとろけた顔をして…  
ルネットはご主人様のおちんぼで  
子宮口をぐりぐりされるのが好きなんだな

あつ…  
すきじゃ…



ルネットが好きなら  
たくさん突いてあげるからな

腰を動かし始める  
ちんぽがぬるぬるの膣壁を擦って  
再び子宮口に密着する

あっ…！  
や…ごしゅじんさま…っ

もう痛みはないようだ  
これなら思う存分動いて  
大丈夫だろう



ルネットも腰を動かしてごらん

この腰……？  
あ……あ……

ほ……ん……

少しだけルネットの腰を持ち上げてやり、重力に任せて下ろすと子宮口が突き上げられてルネットが嬌声を上げる

ぐ  
せ  
ん  
じ  
ん  
ぐ



あつ……！  
あつ、それ、だめ……  
あんっ、あんっ……！

何回か繰り返し返してやると  
ギコチなくも自分で腰を  
動かし始める

あつ、あつ、あつ……  
んっ、あんっ、あんっ

ルネットが俺のちんぽを求めて  
自ら腰を振っていると思うと  
興奮が高まっていく

おちんちん



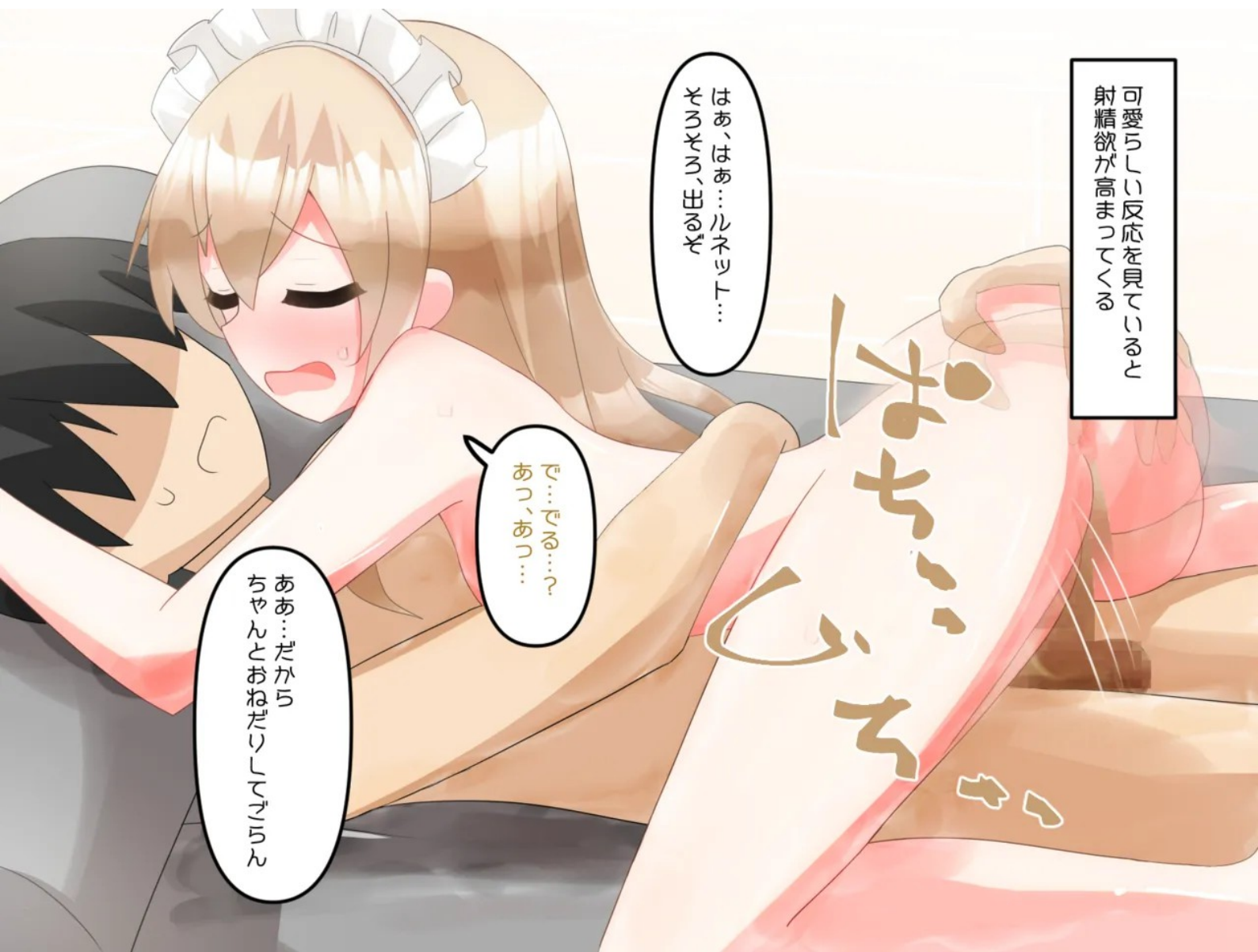
腰を振れてえらいぞ、ルネット  
そんなに気持ちいいの？

えっ？ や、ちが…  
あつ、あつ…！  
こし…かつては…

勝手に動いちゃうの？  
よほど気持ちいいんだな

ちが……あつ、あんつ  
あんつ…  
ごしゅじん、さま…

おちゅーちゅー

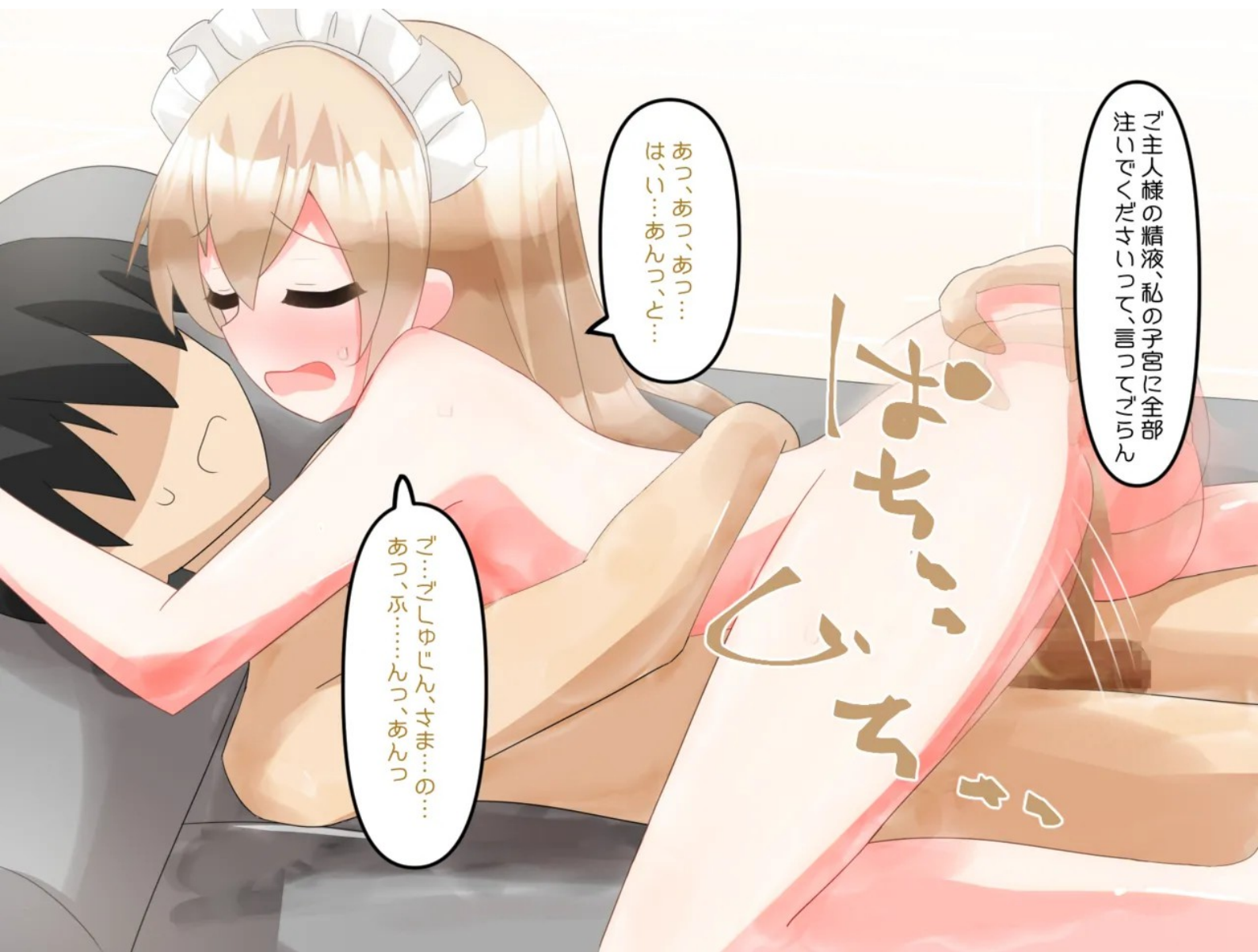


可愛らしい反応を見ると  
射精欲が高まってくる

はあ、はあ…ルネット…  
そろそろ、出るぞ

で…で…で…  
あし、あし…

ああ…だから  
ちゃんとおねだりしてほしいと

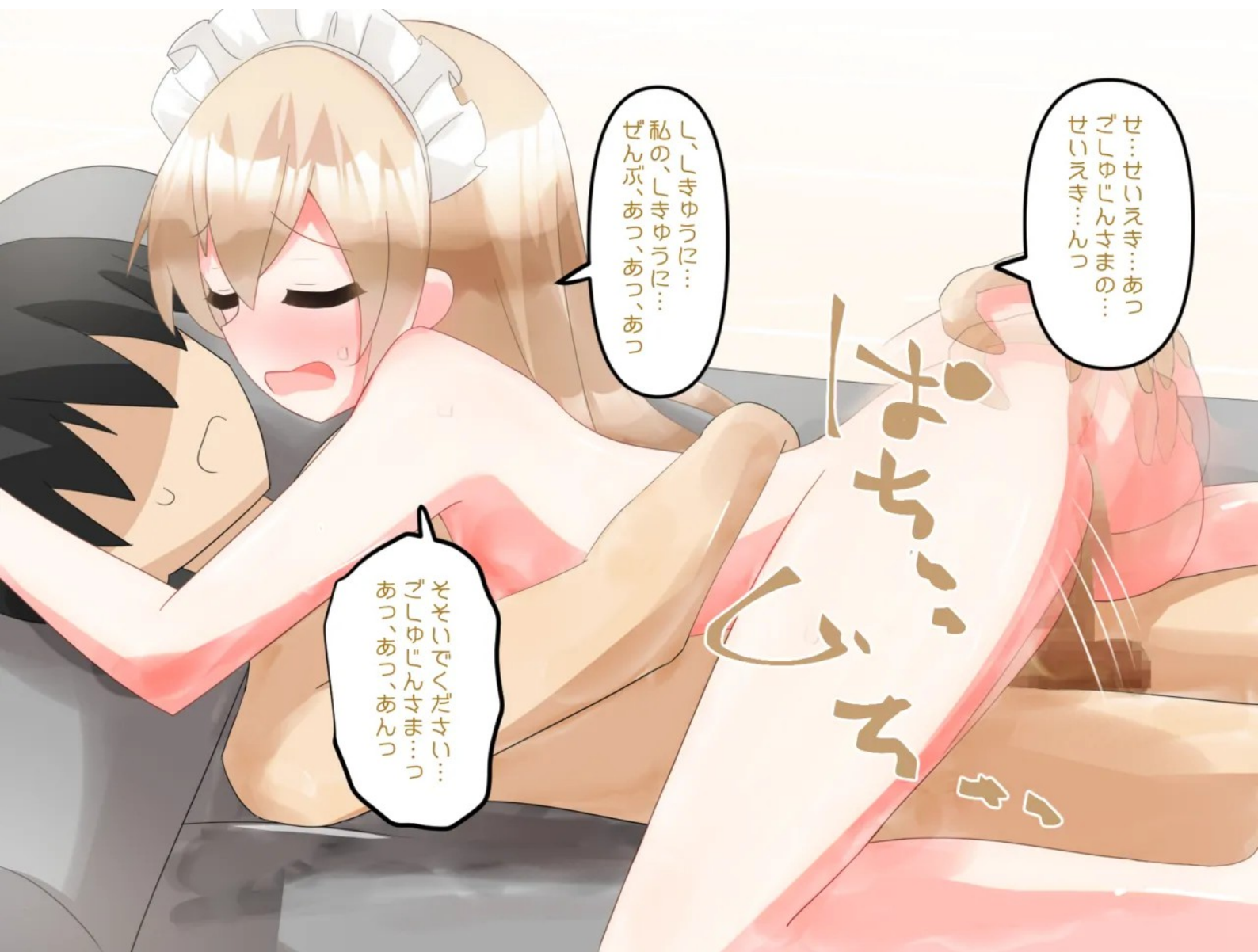


ご主人様の精液、私の子宮に全部注いでくださいって、言ってますよん

あっ、あっ、あっ…  
は、い…あんっ、と…

ご…ごしゅじん、さま…の…  
あっ、ぷ…んっ、あんっ

おちんちん



せ：せいえき：あつ  
ごしゅじんさまの：  
せいえき：んっ

し、しきゆうに…  
私の、しきゆうに…  
ぜんぶ、あつ、あつ、あつ

そそいでください…  
ごしゅじんさま…っ  
あつ、あつ、あんっ

しゅわん  
しゅわん  
しゅわん



ちやんと言えてあげようぞ  
ルネット…  
たっぷり注いでやるからな…！

あつ、あつ、ごしゅじんさま  
そこ、そこ…だめ…だ、め…  
あつ、あつ、あつ…！

もう、だめ…もう…  
んっ、あつ…んんっ…！

ルネット、ルネット…！  
もう、だめ…出るっ…！

おちんちん



ルネットの一番奥で  
精液が放出される

ルネットの膣内に  
精液出る——っ!!

あっ、あっ、いっ……!  
あっ、あっ……  
い……!!

それに合わせるようにルネットの  
膣内が収縮し、精液を  
搾り取ろうとしてくる



くっくっく……

本日二回田とは思えない量が  
ルネットの中に注がれ  
膣内を子宮を犯しつつす

はっ……  
あっ……  
ごっ……さま……

強く抱きしめ合い  
絶頂する身体同士を密着させて  
この快感を享受し合っ



しほくくして  
ようやく波が引き始める

精液全てルネットの中に出し切り  
もうカウパーすら出ない気分だ

あ……  
ご主人様……


ルネットも少し  
落ち着いてきたみたいだ

それからというもの  
すっかりエッチになつたルネットと  
セックス三昧の日々を過ごした

妊娠してほしくはなかつたので  
それとは知らせずに避妊薬を飲ませていたが  
もうすぐ一年になるころそれをやめた

理由はルネットの存在が  
俺の中で欠かせなくなつたからだ

家庭環境もあつて結婚とか子供とかは  
作らないつもりだったが  
いや、今もそれら自体が欲しいわけじゃないんだが




つまり、妊娠と結婚という要因によって  
ルネットを俺に縛り付けたいんだ

卑怯なやり口だとは分かっているが、  
それはそもそも出会ったときからそうだからな  
今更だ……とはいえやはり罪悪感はある

一応まだ避妊薬をやめてから中出しはしていない  
ルネットが嫌だと言えば…潔くあきらめる用意はある

これも最初から変わらない  
ルネットが本当に嫌なことはしない……



ルネットは庭でおさぼり…そとい  
植物の管理をしている

この話をしたらルネットは  
どんな顔をするだろう

自慢じゃないが最近はわりと  
スムーズに会話できるようになった  
とはいえ相変わらず笑顔は滅多に見せないし  
時折不安そうな顔をしているのを見かけるし

やはり無理か…？  
不安になるがこのままずるずるいくのは性に合わない  
ルネットにも不誠実だろう  
俺が誠実さを語るのも笑えるが…



ルネットを見つけて  
声をかける

ルネット

あ……  
ご主人様

ダンゴロシを見たの？



はい…  
ご主人様ですか…？

いや、俺は……

ルネットに  
大事な話があつてきたんだ

えっ——

ルネットの顔が引きつる  
なぜ…？  
もしかして勘づいているのか？

いや…だがモはや引き返せない  
ダメだったとしても因果応報というやつだ

その…なんだ  
もつすぐルネットが来て一年になるな  
だからってわけじゃないが……  
あー…違うな、そうじゃなくて…

男なら単刀直入一発勝負だろ  
頭を振って心を落ち着かせる  
——よし、言っぞ





俺と結婚してくれ

——ルネット

はい……

……さっ……ん？

なんで…ですか？

な、なんで？

まさか理由を聞かれるとは思わなかった  
この反応はもうだめっぽいが、しかし  
はぐらかすわけにはいかない

もう半分くらい砕けているが  
どうせなら全部砕けた方が  
後引かなくていいってものだ

ルネットのことが好きだからだ  
メイドと主人じゃなく  
一人の女の子として…

ずっと一緒に、この屋敷で  
暮らしていきたいと思ってる  
そのためならなんだってするつもりだ

まあ…ルネットにその気はな々そうだが…  
ルネットがいいならまっしはびくこにだ—

ふとルネットを見てきょくとする



る、ルネット!?  
ごめん、そんなに嫌だったか!

ち、ちが……  
ひぐ、ぐすっ……

とにかくなだめて  
落ち着かせる

その後ルネットは自分の心の内を  
話してくれた



施設でも怒られてばかりで  
たまに行く就業体験でも上手くできず  
周りになじめず、自分にはなんの価値もないと  
思っていたこと

ここに来た時も同じで  
そのうちクビにされて放り出されると  
思っていたこと

メイドなのに料理も買い物もできない  
掃除や洗濯も遅くて下手な自分に  
俺が優しくしてくれることが怖かったこと

なによりここにいたいという気持ち  
大きくなつていくことが怖かったことなどを  
話してくれた

ご主人様が、私に誕生日をくれたり…  
だんごむしを…  
見る私を見て、気持ち悪いって言わなかったり…

居心地がいいって…思うのが怖くて…  
いつかなくなるときに…  
今度は、耐えられないんじゃないかって…

私…

ルネット…  
ごめん、一年も不安にさせてしまったね

今話してくれた  
ルネットが自分で欠点だと思ってるところは  
俺にとつてはなんてことのないものだ

それ以上に俺はルネットのいいところを  
たくさん知ってるよ

だから——  
改めて言わせてほしい  
俺と結婚してくれ



結婚……

ああ  
ずっと一緒にいよう  
ルネット

……はい、喜んで……!

そのとき見せてくれた満面の笑顔は  
きっと俺の生涯で一番の宝物になるだろう

























